

日本の母親・韓国の母親

～母親らしさを支えているもの～

目次

要約とまとめ	2
プロローグ ソウルの受験事情	4
第Ⅰ章 日本の母と韓国の母	7
1. 母親たちの自己像	7
2. 子どもへの評価	18
3. 学歴との関連	27
第Ⅱ章 子どもの数の重み	36
1. 母親としての実感	36
2. 子どもとのかかわりから	45
3. 子どもの将来	50
第Ⅲ章 職業のクロスから	55
1. 子どもへの配慮	55
2. 学歴への思い	59
3. 母として女性として	63
第Ⅳ章 学歴との関連から	71
1. 進学について	71
2. 子どもの将来に期待するもの	77
3. 学歴の値打ちと生き方	83
第Ⅴ章 生まれ変わりからみた母親の意識	88
1. 心のゆれと夫のタイプ	88
2. 子どもとのかかわりの中から	94
3. 女性としての生き方から	102
資料1 調査票見本および集計結果	105
資料2 調査票見本（韓国語版）	118

*おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとはいっさい関係ありません。

要約とまとめ

静岡大学教授
深谷昌志

本調査の実施にあたって、東京韓国総合教育院の李光衡院長、申東春教務部長、申東柱総務部長、宋秉一研究部長、梨花女子大の李貴胤教授をはじめ、韓国のたくさんの人たちのご協力を得た。深く感謝したいと思う。

① 仕事の有無

韓国の母親の43.4%が専業主婦だが、日本の専業主婦率は29.1%で、パートタイムで働く母親が31.8%に達する（p.8 図1）。

② ふだん感じていること

韓国の母親のほうが、子どもが気がかりだという（p.11 図3）。

③ 自己評価

韓国の母親は「教育熱心」と思っている割合が高く（韓国=45.6%、日本=21.0%）、それに対し、日本の母親は「趣味を楽しむ」割合が多い（日本=35.3%、韓国=17.0%）（p.15 図4）。

④ 子どもへの配慮

韓国の母親のほうが「夜、外出しないようにしている」などの配慮をしている割合が多い（p.22 図7）。

⑤ 「子ども」の意味

韓国の母親の26.5%が「家を継ぐ」と思っているのに対し、日本の母親でそう感じているのは3.3%にすぎない（p.25 図8）。

⑥ 成績を気にする

韓国の母親の62.3%が子どもの成績を気にしているが、日本の母親でそう思っているのは17.0%にとどまる（p.28 図9）。

⑦ 学歴の値打ち

韓国の母親の35.4%は「学歴の値打ちがでる」と思っているのに、そう思っている日本の母親は2.8%にすぎない（p.31 表20）。

⑧ 幸せ×子どもの数

子どもの数が増えるほど、幸せと思う割合が増す (p. 37 表25)。

⑨ 疲労×子どもの数

子どもの数が増えるにつれて、母親の疲れが目につく (p. 44 図15)。

⑩ 子どもへの配慮×仕事の有無

韓国の母親は、フルタイム、専業主婦ともに、日本の母親より子どもに配慮している (p. 57 図20・21)。

⑪ 進学期待×母親の学歴

高学歴の母親のほうが学歴期待が強いのは日韓ともに共通している。また、全体として韓国のほうが教育期待が強い (p. 76 図30)。

⑫ 学歴の効用×母親の学歴

日本では高学歴になるにつれて、学歴の効用に否定的だが、韓国では高学歴の母親のほうが学歴の価値を信じている (p. 85 図34)。

⑬ 幸せ感×生まれ変わり

日韓ともに、また女性に生まれたいと思っている母親は幸せ感を味わっている (p. 90 図36)。

【まとめ】

日本と比べると、韓国の母親は家庭を大事にし、子どもの教育に熱心のように見える。そして夫たちも家庭的なようだが、性差に対応した役割分担が固定化している社会なので女性としての自分に否定的で、男性として生まれ変わりたい女性が少なくない。

それに対して日本の母親は、子どもが中学生になったためか、それなりに人生を楽しんでいる。そして子どもや夫に恵まれ、女性としての自分を肯定しているのが目につく。

【付記】

今回の調査は、母親の意識を対象にしているので、放送大学で私のもとで卒論を書き、その後、研究会を持ち、社会教育学会などで発表を続けているグループに調査票の作成、分析を依頼した。もちろん、私も責任をもって指導したつもりだが、研究者でない人たちのアマチュアのもつ良さが、誌面に感じられるのを願っている。

本号の執筆分担

尼子 孝子 (I章)
笠間 邦子 (II章)
成松 文子 (III章)
鈴木 明美 (IV章)
北村ひろ子 (V章)

【調査概要】

対象●日本 (東京に住む中学生をもつ母親1,070名)

韓国 (ソウルに住む中学生をもつ母親846名)

時期●日本 (1993年9月)

韓国 (1993年10月)

方法●学校通しによる質問紙調査

ソウルの受験事情

静岡大学教授 深谷昌志

学習塾禁止令

韓国というと、受験勉強のきびしさで知られている。今回の日韓の比較調査でも、韓国の母親たちの間に、子どもの教育に熱心に臨んでいる態度が目につく。そこで改めて韓国の受験事情についてふれておこう。

今回の調査にあたって、2度ほど韓国を訪ねたが、ソウルへ出発する前にいくつか確かめてみたいことがあった。その1つは、学習塾禁止令が韓国の教育にどういう結果をもたらしたかを見聞することであった。

周知のように、韓国では1980年に大統領令を発して、家庭教師や学習塾を禁止する政策を実施している。その当時に試みられた改革の概要は、以下の通りである。

(1) 中学（現在は義務制でない）と高校への入学は小学区制をとり、コンピュータを使って総合選抜をする。その際、私立学校も特例を認めず、小学区の中に位置づける。

(2) 大学進学状況を緩和するため、卒業定員をそのままにして入学定員を2倍とする（当然、アメリカ型の卒業しにくい大学へ、大学の性格が変わっていく）。

(3) 浪人を除き、児童および生徒が家庭教師についたり、塾通いをするのを禁止する。それに違反した家庭や教師、学生は処分の対象

とする。なお、ピアノやそろばんなどのけいごごとは、学校長の許可を得て通うこととする。

1982年にソウルを訪ねたことがあった。そのときは改革が試みられた直後で、学習塾で教えていた大学教授が逮捕され、親に罰金が課せられたなどのニュースが流れていた。

ソウル大学へ行き、何人かの大学生に、学習塾や予備校の話聞いてみた。中学生時代はむろんのこと、高校へ入っても毎日夜の11時すぎまで予備校へ通ったという。朝早く、昼と夜の弁当を持って登校する。学校が4時までであるので、教室の片隅で夕食をとり、5時から予備校へ行く。英語と数学を中心に、さらに5～6時間の補習がつづく。夜の12時から外出禁止令が出されているので、帰りはかけ足で帰宅を急いだという。

しかも、受験勉強を始める年齢が低下し、ソウルあたりでは小学校高学年生の半数以上が家庭教師につく状況になった。もっとも、月謝が高いので、数人でグループを作り、どこかの家へ来てもらう形が多かったらしい。

そうした教育過熱状況に手を焼いた政府が学習塾や予備校（浪人生を除く）を禁止する処置に出たのはすでに述べた通りだが、その当時でも、筆者の訪ねた私立高校では、学習塾の代わりに、朝の6時から校内放送を通して、英語や数学の補習を行っていた。つまり

よい大学へ入りたいと生徒が思って勉強をしているのだから、学校としてもできるだけ手を貸す必要がある。特に、学習塾や予備校が禁止されたので、学校は生徒の進学指導にすべての責任を負う形になる。そうすると、補習の復活もやむを得ないのかという気がしないでもない。

明け方まで受験勉強

もっとも、1982年にソウルを訪ねたときに手にした資料によると、その頃の韓国の中学卒の平均賃金は47,000ウォンというから、日本円に換算すると16,000円（当時、以下同）程度の月収となる。高卒でも73,000ウォン（24,000円）程度の収入にすぎなかった。といっても、家庭電化製品などの値段は日本と変わらないので、生活は決して楽ではない。しかし、大学卒の平均賃金は16万8,000ウォン（56,000円）に達するというし、しかも職種によっては、もう少し高い賃金を望めるという。

つまり、学歴間の賃金格差が大きく、「大学卒」というレッテルがものをいう社会が10年ほど前のソウルだった。中でもソウル大学出身者は、ハーバード大学やケンブリッジ大学卒業以上の値打ちをもつという。となれば大学進学熱が高まるのは当然である。何しろ学歴は賃金だけではなく、社会的な尊敬、結婚、家庭生活にも影響が及んでくる。加えて韓国では、徴兵制がとられているので、20歳までに大学へ入っていないと進学が困難になる。そのため何とか現役で志望大学へ入ろうとする気運が強まってくる。つまり、一浪しか許されていない社会である。そうした背景があるだけに、学習塾を禁止するだけでは問題解決にならないのではと思った。

その後、1987年にソウルを訪ねたとき、ソウルでは学習塾が禁止された代わりに自習室が盛んになっていた。何人かから話を聞いてみると、自習室というのは日本流の言い方であって、現地ではドクソシル（「読書室」あ

るいは「図書室」）というらしい。そして、ターミナルへ行かなくとも、町中にいくつものドクソシルがあるとのことであった。

とりあえず外側を見ることとしたが、ビルの2階や小さな建物にドクソシルがある。日本でいえば、さしずめ学習塾という感じで、大規模で企業的な感じのところがあるかと思うと、小さな家内工業的な設備もある。

ドクソシルを利用しているのは、原則として高校生で、生徒たちは当然のことながら昼間は学校へ通っている。しかも放課後、教室や図書室で自習する形が定着しているので、生徒たちは夜の10時近くまで在校している。それならば、ドクソシルなど不要ではないかと思う。しかし生徒たちは、10時すぎにドクソシルへ入り、夜中の1時、あるいは2時頃まで勉強をする。生徒によっては、ちょっと仮眠した後、明け方まで受験勉強をして、そのまま学校へ出かけるという。しかも、そうしたドクソシルから通学する生徒は、決して少数例ではないらしい。

外側から見ているだけでは状況がわからないので、ドクソシルの内部を見せてもらうことにした。案内してくれたのは、中流の下位の感じのところだったが、フロアーがベニヤで区切られている。開けてみると、畳2枚くらいのスペースに机と椅子があり、マットレスもあるので仮眠くらいはできる。その他に共有のシャワーがある。学生版カプセルホテルといえば、ドクソシルの感じをつかめると思う。

しかし、生徒たちが受験勉強をしているところなので、雰囲気は暗い。それに換気などを考えずに間仕切りがしてあるから、かつての万年床の敷かれた学生下宿のような臭いもして、快適な環境とはいえない。

もっとも、これは中流の下だからこうした雰囲気になるので、ソウルの中心街にあるドクソシルは、スペースが広く、シャワーも高級で、おまけにイヤホンで音楽を聴けたりする設備も備えているらしい。そうすると、50,000ウォンというから、日本円に換算して

月額10,000円弱の出費を覚悟しなければならない。中流の下のドクソシルでも30,000ウォン前後、ほぼ6,000円の負担である。月収が日本の半額程度の事情を考えると、どうみても安いものとはいえない。

大学入試テストを目指して

高校生たちは夜遅くまで勉強した後、自習室にこもって明け方まで受験勉強に取り組む。

ソウル滞在中に知り合いになった何人かにドクソシルについての考えを尋ねてみた。

受験期間はせいぜい1~2年にすぎない。あとで後悔しないように、全力をあげて勉強すればよい。家にいると、どうしても緊張感に欠ける。だから受験仲間のいるドクソシルで勉強したほうがよい。自分も若い頃にドクソシルを使ったが、青春の思い出の1ページとして、ああいう体験もあってよいのではないか。

予想外なほどにドクソシルを批判する声が聞こえてこない。新聞やテレビにも、ドクソシルをストレートに批判する動きは認められないという。

そうした意味では、学習塾の禁止が、ドクソシルという学習施設を生み出したといえなくもない。

ところで韓国の大学入試のあり方は、ここ数年目まぐるしく変わっているが、1990年頃までは、韓国では11月20日頃に日本の共通一次に相当する大学入試のための共通テストが実施されていた。日本の場合と異なり、私立大学も参加しているので、このテストで何点を取れるかで、どの大学へ入れるかが決まる。それだけに受験生は、このテストを目指して勉強することになるが、現在のところ国語、数学、歴史、外国語、政治経済など、16科目340点満点のテストで、12月末にテストの結果が発表になる。そうした結果をふまえて1月中旬に、志望大学に学科の希望を3つまで書いて資料を提出する。

もちろん、生徒たちは何とか合格したいの

で、自信のある者を除くと、競争率の低い学科を選びがちになる。その結果、本人の志望と関係のない学科へ入学することが少なくならしい。また16科目のテストはあまりに教科の数が多いというので、科目を減らす動きが始まっていた。さらに、合格決定にあたって当該大学で実施する論文や面接の比重を増し、共通テストの結果だけで合否が決まらないようにしたいという教授の声もあった。

新しい学校改革

今回、ソウルを訪ねてみると、第6次教育課程の改訂が始まり、「21世紀を目指した教育改革」の気運が強まっていた。

もともと高校入試は、私立を含めて連合試験の結果で進学先が決まるので、科学高校などを除くと、高校入試の問題は少なかった。

しかも、子どもたちの創造性や自主性を尊重したいというので、ソウル市内の中学校では夕方までの補習教科が廃止されていた。また、韓国の教育事情のシンボルのような、高校生の夜9時すぎまでの学校での勉強も1994年から廃止される予定とのことだった。

何人かの校長にそうした改革への反応を尋ねてみた。学校での自習がなくなり子どもたちが自由時間を取り戻せるだろうという先生と、これでは子どもを学習塾（学院と呼んでいる）へ行かせるだけで、問題はさらに悪化するという先生とに意見が分かれた。

日本の業者テスト廃止の問題と同じように理想を掲げて改革に乗り出したものの、現実には混乱を増しただけという感じである。

ただ、韓国の文部省のほうは、この改革で子どもたちは受験の苦しみから、かなり解放されると考えているようであった。

ともあれ、日本と同じように受験競争の緩和を目指した教育改革が進んでいるが、一方で問題が山積しているというのが、ソウルの受験事情のように思えた。

今回報告するのは、そうした中で母親たちの意識を尋ねた結果である。

第 I 章 日本の母と韓国の母



1. 母親たちの自己像

1) 母親の就労形態

日本と韓国の中学生をもつ母親を対象として、母親としての意識に違いがあるか、それとも共通点が多いのかを考えようとするのが本レポートの目的である。

考察に先だって、まずサンプルの概要を紹介しよう。サンプルのプロフィールは表1の通りである。年齢的には40代前半で、子どもは2人という条件は日韓に共通している。しかし、日本の母親の31.8%がパートタイマーとして働いているのに対して、韓国の母親の43.4%は専業主婦としての生活を送っている。こうした母親の就労形態の違いは図1の通りで、つきつめて言えば、日本=パートタイ

ム、韓国=専業主婦となる。しかし「仕事をしていたが結婚してやめた」割合は、日韓ともに38%に達している(表2)。

現在の自分の体調について、図2(表3)のように、韓国の母親が「疲れやすい」と答えているのが目につく。韓国の母親に専業主婦が多いのに、どうして疲れやすいのであろうか。

また、母親として「ふだん感じていること」は図3(表4)が示すように、「家事はきりが無い」や「子どもが気がかり」と思っているのは韓国の母親に多い。韓国の母親は母親業に真剣に取り組んでおり、それだけに疲労感を味わっているのであろうか。

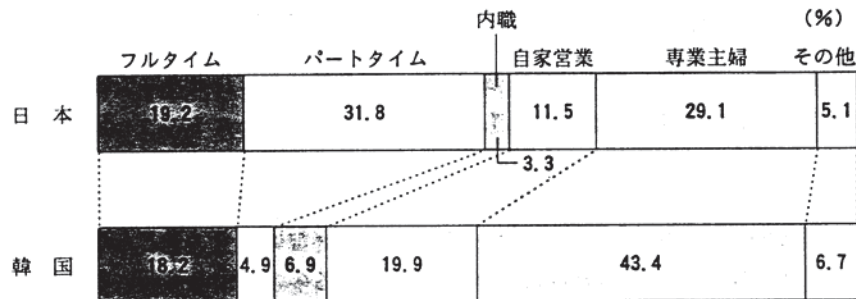
(表1) サンプルのプロフィール

(%)

	年齢	39歳以下		40～44歳		45歳以上	
		19.8		54.0		26.2	
日本	子どもの数	1人	2人	3人	4人	5人以上	
		8.6	55.5	30.5	4.7	0.7	
日本	学歴	中学卒	高校卒	短大・ 専門学校卒	大学卒	その他	
		4.2	48.3	30.2	16.3	1.0	
日本	職業	フルタイム	パートタイム	内職	自家営業	専業主婦	その他
		19.2	31.8	3.3	11.5	29.1	5.1
	年齢	39歳以下		40～44歳		45歳以上	
		32.4		50.3		17.3	
韓国	子どもの数	1人	2人	3人	4人	5人以上	
		7.5	65.4	22.1	3.7	1.3	
韓国	学歴	中学卒	高校卒	短大・ 専門学校卒	大学卒	その他	
		14.7	47.8	5.4	28.4	3.7	
韓国	職業	フルタイム	パートタイム	内職	自家営業	専業主婦	その他
		18.2	4.9	6.9	19.9	43.4	6.7

(図1) 現在の仕事

→ 韓国=専業主婦、日本=パートタイム

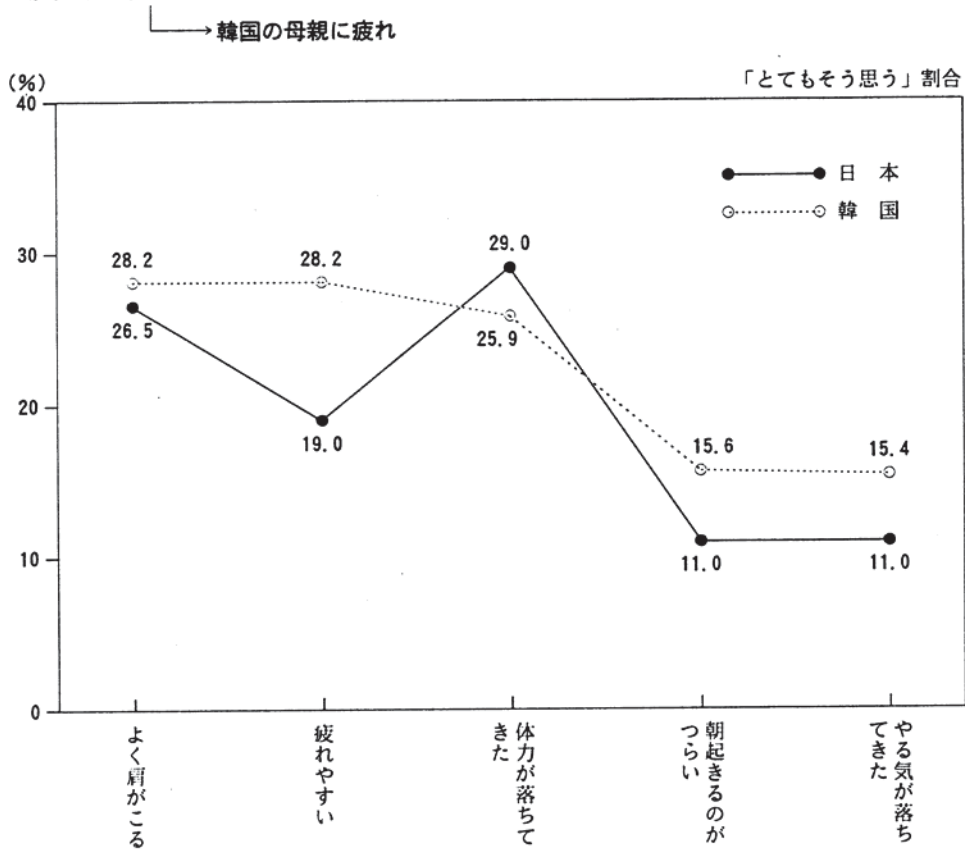


(表2) 仕事の経験

(%)

	日 本	韓 国
仕事をしたが結婚してやめた	38.7	38.0
仕事をしたが出産前後にやめた	18.7	4.7
一度やめたが子育ての後動めた	16.7	21.4
結婚前から続けて動めてきた	13.1	15.0
フルタイムの仕事をしたことがない	12.8	20.9

(図2) 母親の体調



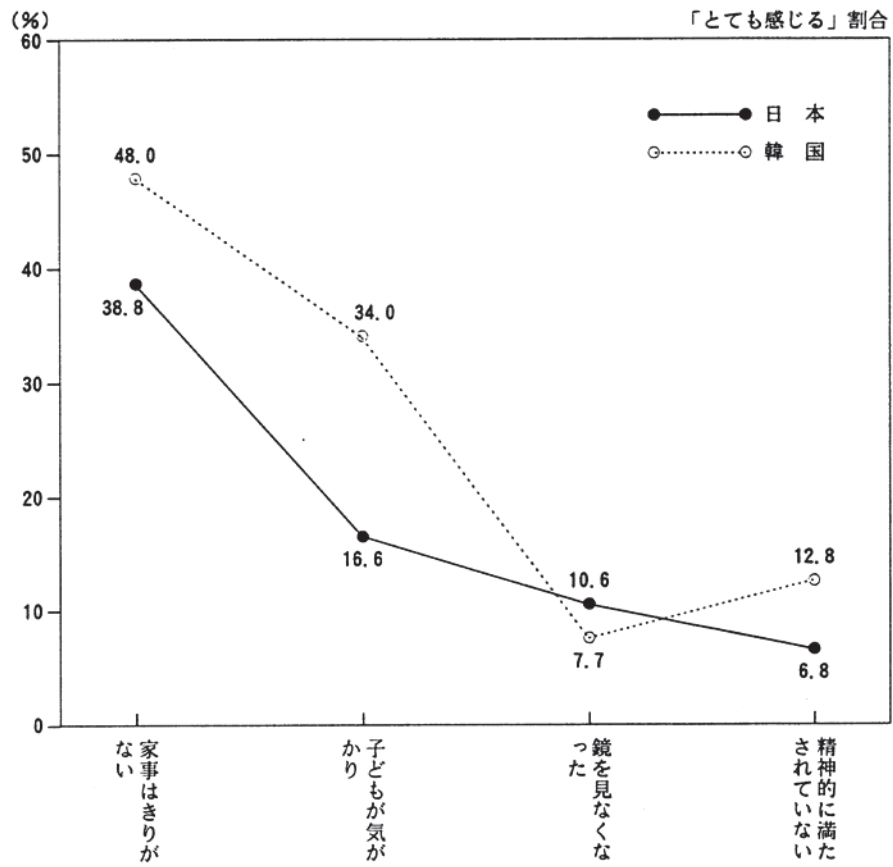
(表3) 母親の体調

(%)

		ぜんぜん そう思わない	あまり そう思わない	やや そう思う	とても そう思う
日 本	朝起きるのがつらい	14.6	32.6	41.8	11.0
	よく肩がこる	14.4	24.6	34.5	26.5
	やる気が落ちてきた	9.4	36.1	43.5	11.0
	疲れやすくなった	4.0	16.9	60.1	19.0
	体力が落ちてきたと感じる	2.2	12.5	56.3	29.0
韓 国	朝起きるのがつらい	12.9	27.5	44.0	15.6
	よく肩がこる	7.7	19.4	44.7	28.2
	やる気が落ちてきた	9.1	31.7	43.8	15.4
	疲れやすくなった	5.1	14.9	51.8	28.2
	体力が落ちてきたと感じる	5.8	18.8	49.5	25.9

(図3) ふだん感じていること

↳ 子どもが気がかり (韓国)



(表4) ふだん感じていること

(%)

		とても 感じる	かなり 感じる	やや 感じる	あまり 感じない	ぜんぜん 感じない
日 本	家事はいくらやってもきりがない	38.8	33.0	20.1	6.5	1.6
	子どものことがいつも気がかり	16.6	27.7	39.2	14.3	2.2
	いつも何かに追いかけているよ うな気がする	12.5	14.6	31.1	30.9	10.9
	ゆっくり鏡を見ることがなくなった	10.6	15.9	31.6	31.4	10.5
	何か大切なことを忘れていたよ うな気持ちになる	9.1	13.2	36.2	31.9	9.6
	いつも精神的に満たされていない 感じがする	6.8	9.8	29.2	40.9	13.3
	何となく求人広告欄を眺めている 自分に気がつく	4.4	7.2	22.7	28.8	36.9
韓 国	家事はいくらやってもきりがない	48.0	27.4	17.4	6.5	0.7
	子どものことがいつも気がかり	34.0	30.0	26.1	8.2	1.7
	いつも何かに追いかけているよ うな気がする	12.8	19.2	31.5	24.9	11.6
	ゆっくり鏡を見ることがなくなった	7.7	16.9	30.5	33.1	11.8
	何か大切なことを忘れていたよ うな気持ちになる	15.7	19.2	33.2	24.3	7.6
	いつも精神的に満たされていない 感じがする	12.8	21.6	33.3	23.2	9.1
	何となく求人広告欄を眺めている 自分に気がつく	6.0	10.5	21.4	31.6	30.5

2) 幸せ感

それでは、日韓の母親たちの自己評価にどのような違いが認められるのであろうか。くわしいデータは表5の通りだが、これを図4の形にまとめてみた。

	日本の母(A)	韓国の母(B)	B/A
〔日本の母親〕			
がんばりや	48.1%	22.6%	47.0
世の中の動き			
に関心	44.7	26.0	58.2
趣味を楽しむ	35.3	17.0	48.2
〔韓国の母親〕			
教育熱心	21.0	45.6	46.1
やりくりがう			
まい	21.3	40.2	53.0
夫の操縦がう			
まい	18.8	25.0	75.2

(「とても+わりとそう」の割合)

韓国の母親に家庭的なイメージが感じられるのに対し、日本の母親は脱家庭の雰囲気を感じられる。また、夫のタイプは図5(表6)のように、韓国の父親のほうが子どもをかわいがり、妻を大事にしているように思われる。そうした中で韓国の男性は、妻の就労

にあまり賛成していない。

こう見てくると、日本より韓国のほうが性的な役割分業の文化が定着しており、夫は外で働き、妻が家庭を守るという形態が定着していることがわかる。それと比べると、日本の母親はある程度まで家庭離れをしている印象を受ける。

表7によると、生まれ変わりについて、男子に生まれ変わりたいのは、日本31.7%、韓国57.1%である。一般に女性の社会的な地位が低いと女性であることに否定的になり、男子に生まれ変わりたい割合が増すとされる。そうした意味では韓国のほうが女性にとっては住みにくい社会なのかもしれない。また「幸せ感」は表8のように、日本55.7%、韓国44.0%(とても+かなり)と、日本の母親のほうが幸せを感じている割合が多い。

しかし、表9が示すように、「もう一度人生を送れたら、専業主婦としての人生」を考える人が、韓国は48.2%と、半数に迫っている。それに対し、日本でそう思っているのは15.4%にとどまる。したがって韓国は、専業主婦の文化が安定性を保っているといえるのかもしれない。

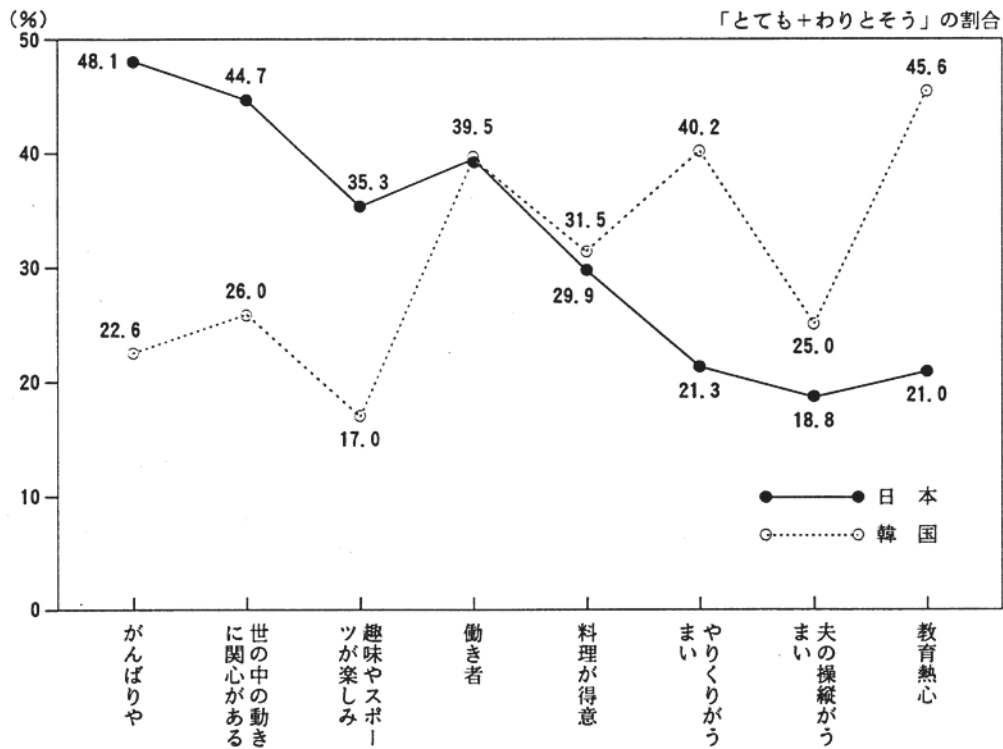
(表5) 自己評価

(%)

		とても そう	わりと そう	どちらかと いうとそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
日 本	がんばりや	17.1	31.0	28.8	20.7	2.4
	働き者	16.2	23.3	29.6	27.5	3.4
	世の中の動きに関心がある	13.9	30.8	35.5	18.0	1.8
	趣味やスポーツを楽しんでいる	13.3	22.0	21.9	27.6	15.2
	人の面倒をよくみる	8.9	20.8	37.5	29.7	3.1
	子どものすることについて口が出る	8.3	25.9	43.4	20.6	1.8
	料理が得意	6.8	23.1	31.6	34.2	4.3
	やりくりがうまい	6.7	14.6	27.0	41.7	10.0
	洋裁や編み物が得意	6.6	16.7	21.4	34.9	20.4
	なかなかのおしゃれである	6.6	15.2	31.1	35.1	12.0
	流行に敏感である	4.4	12.5	21.6	42.4	19.1
	夫の操縦がうまい	4.1	14.7	30.6	39.5	11.1
子どもの教育に熱心	3.9	17.1	40.7	35.0	3.3	
韓 国	がんばりや	11.8	10.8	28.9	38.2	10.3
	働き者	19.3	20.2	39.4	19.1	2.0
	世の中の動きに関心がある	8.8	17.2	42.7	28.4	2.9
	趣味やスポーツを楽しんでいる	7.6	9.4	21.1	38.5	23.4
	人の面倒をよくみる	12.3	15.8	45.9	23.9	2.1
	子どものすることについて口が出る	8.9	16.9	46.7	25.1	2.4
	料理が得意	14.4	17.1	44.4	23.4	0.7
	やりくりがうまい	17.5	22.7	50.5	8.7	0.6
	洋裁や編み物が得意	6.2	7.1	22.9	40.7	23.1
	なかなかのおしゃれである	5.2	5.7	29.4	46.6	13.1
	流行に敏感である	4.4	5.0	23.3	50.0	17.3
	夫の操縦がうまい	10.0	15.0	42.6	27.7	4.7
子どもの教育に熱心	20.9	24.7	42.2	11.5	0.7	

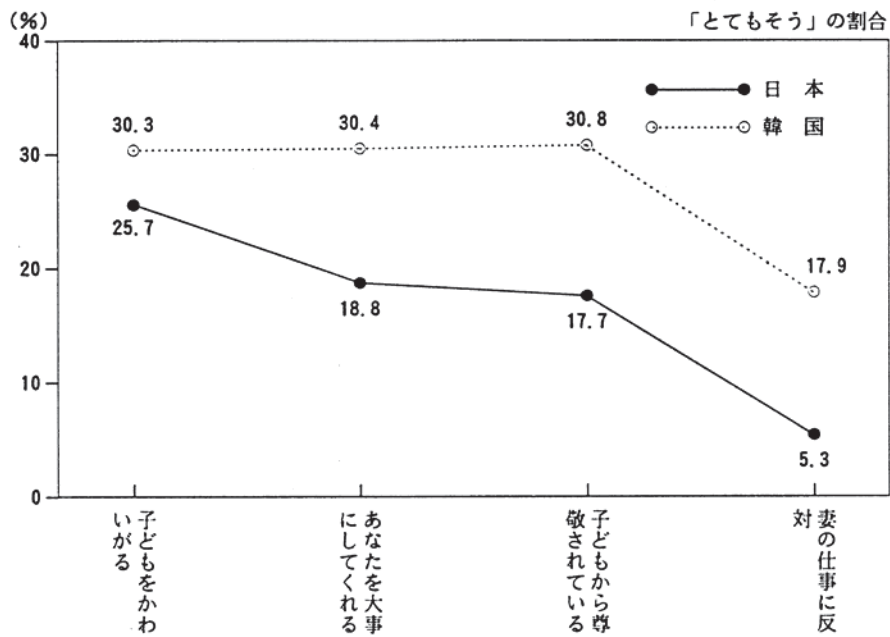
(図4) 自己評価

→ 韓国=教育熱心、日本=趣味を楽しむ



(図5) 夫のタイプ

→ 韓国の夫は家庭的



(表6) 夫のタイプ

(%)

		とてもそう	かなりそう	ややそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
日 本	子どもをかわいがる	25.7	30.4	33.8	8.3	1.8
	子どもから親しまれている	19.2	24.7	36.1	16.4	3.6
	あなたを大事にしてくれる	18.8	23.4	35.4	15.9	6.5
	子どもから尊敬されている	17.7	25.4	37.0	15.4	4.5
	仕事第一で家庭のことをし ない	10.7	12.5	19.8	36.0	21.0
	料理、洗濯などを手伝って くれる	7.4	10.4	24.7	21.8	35.7
	妻が仕事をするのは反対	5.3	8.4	17.5	35.8	33.0
韓 国	子どもをかわいがる	30.3	32.1	25.2	10.8	1.6
	子どもから親しまれている	28.5	32.2	26.6	11.1	1.6
	あなたを大事にしてくれる	30.4	31.9	28.6	7.6	1.5
	子どもから尊敬されている	30.8	32.4	27.5	8.0	1.3
	仕事第一で家庭のことをし ない	5.3	10.5	21.7	38.0	24.5
	料理、洗濯などを手伝って くれる	8.2	10.7	24.6	25.0	31.5
	妻が仕事をするのは反対	17.9	12.8	20.7	33.3	15.3

(表7) 生まれ変わり

└──日本=女、韓国=男

(%)

	ぜったい男	できたら男	できたら女	ぜったい女
日 本	8.1	23.6	43.2	25.1
韓 国	16.6	40.5	30.7	12.2

(表8) 幸せ感

(%)

	とても幸せ	かなり幸せ	やや幸せ	あまり 幸せでない	ぜんぜん 幸せでない
日本	17.9	37.8	38.0	5.4	0.9
韓国	14.9	29.1	44.3	10.6	1.1

(表9) もう一度人生を送れたら

(%)

		ぜひ そうしたい	かなり そうしたい	やや そうしたい	あまり そうしたく ない	まったく そうしたく ない
日本	親を大事にして、家族、親戚と仲よくする	31.7	29.6	33.7	4.4	0.6
	常に自分を磨き、教養豊かな賢い母親になる	29.0	28.6	30.5	9.6	2.3
	結婚後も仕事をもち、経済的に自立した女性になる	22.9	21.7	24.8	23.6	7.0
	専業主婦としてよき妻、やさしい母親になる	15.4	17.4	28.6	28.3	10.3
	高い学歴を身につけ、男性と同じように社会で活躍する	11.3	14.8	27.2	38.0	8.7
韓国	親を大事にして、家族、親戚と仲よくする	43.6	35.4	17.9	3.0	0.1
	常に自分を磨き、教養豊かな賢い母親になる	53.4	32.5	11.9	1.8	0.4
	結婚後も仕事をもち、経済的に自立した女性になる	31.4	25.8	23.7	14.9	4.2
	専業主婦としてよき妻、やさしい母親になる	48.2	24.4	15.1	9.3	3.0
	高い学歴を身につけ、男性と同じように社会で活躍する	35.4	26.4	19.8	15.5	2.9

2. 子どもへの評価

1) 子どもへの悩み

専業主婦の母親が熱心に子育てをしているのが韓国の母親というこれまでのデータだが、わが子についての評価は図6（表10）の通りである。日本の母親に比べて韓国の母親は、わが子を「やる気がある」「勉強が得意」と評価する割合が高い。しかし、子どもの行動については、表11に示すように、韓国の母親のほうが悩んでいるように見える。

韓国の母親の悩み = 「成績がよくならない」「勉強をしない」「テレビばかり見ている」「偏食が多い」など。

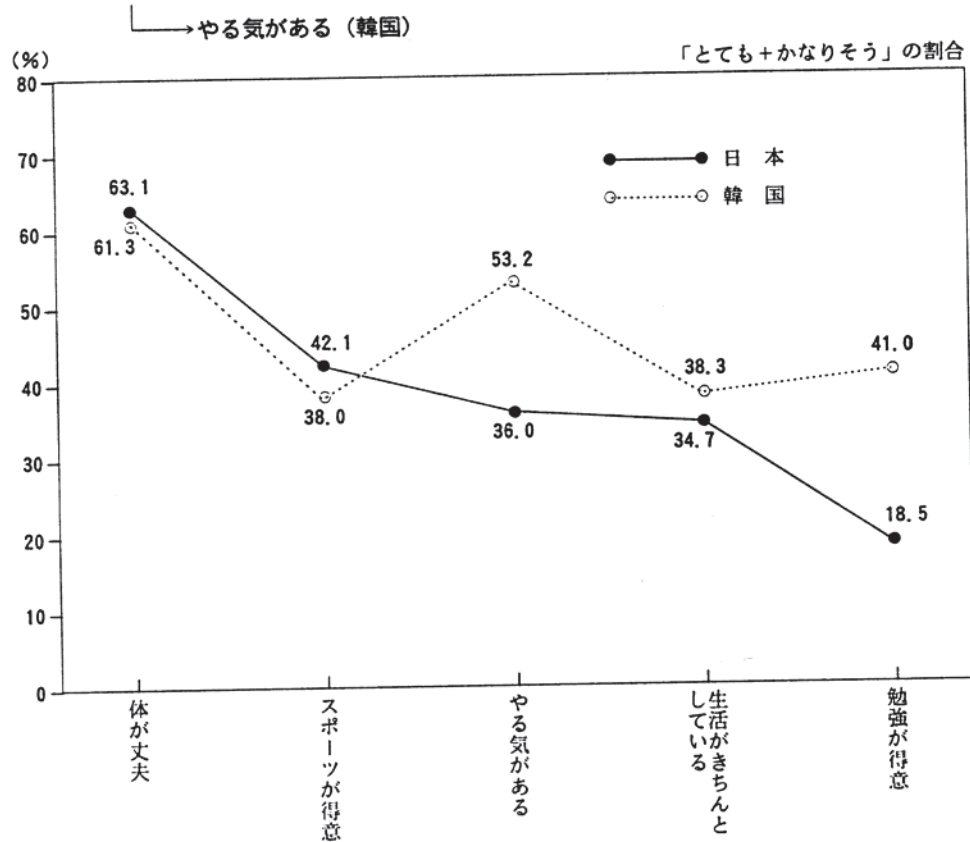
日本の母親の悩み = 「だらしがない」「忘れ物が多い」など。

韓国の母親が子どもの勉強で悩んでいるのに対し、日本の母親は性格面で子どものことに困っている。

それでは、母親たちは子どもが小学校低学年の頃、子どもにどう接してきたのか。表12が示すように、韓国の母親は子どもの勉強を教えている割合が高い。

それでは、母親たちは子どもが小学校低学年の頃、子どもにどう接してきたのか。表12が示すように、韓国の母親は子どもの勉強を教えている割合が高い。

(図6) 子どものタイプ



(表10) 子どものタイプ

(%)

		とてもそう	かなりそう	ややそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
日 本	体が丈夫	31.2	31.9	26.2	9.9	0.8
	スポーツが得意	18.1	24.0	26.7	26.7	4.5
	やる気がある	10.7	25.3	41.8	19.5	2.7
	生活がきちんとしている	8.7	26.0	40.1	21.6	3.6
	勉強が得意	3.1	15.4	40.9	34.5	6.1
韓 国	体が丈夫	29.8	31.5	22.6	14.6	1.5
	スポーツが得意	16.2	21.8	25.6	28.3	8.1
	やる気がある	20.5	32.7	27.4	17.2	2.2
	生活がきちんとしている	13.5	24.8	30.7	26.4	4.6
	勉強が得意	10.8	30.2	32.4	24.1	2.5

(表11) 子どもの行動で困ったこと

(%)

		今とても困っている	今少し困っている	以前は困っていたが、今は困っていない	以前も今も困っていない
日 本	成績がよくなるらない	11.6	43.3	7.1	38.0
	だらしがない	10.5	47.2	9.8	32.5
	勉強をしようとししない	8.1	38.9	15.7	37.3
	テレビばかり見ている	7.3	35.5	14.1	43.1
	夜ふかしをする	7.0	37.2	6.9	48.9
	偏食が多い	4.9	21.6	13.4	60.1
	言葉づかいが悪い	4.8	33.1	10.4	51.7
	親に反抗する	3.1	30.6	11.5	54.8
	忘れ物が多い	3.1	22.4	22.0	52.5
	気が弱い	3.0	22.0	18.1	56.9
	気に入らないとあばれる	1.0	5.5	5.6	87.9
	体が弱い	0.9	9.4	15.6	74.1
	親にうそをつく	0.7	6.8	8.6	83.9
韓 国	成績がよくなるらない	24.0	45.1	20.9	10.0
	だらしがない	3.0	35.2	55.3	6.5
	勉強をしようとししない	15.6	42.8	30.2	11.4
	テレビばかり見ている	15.5	43.9	29.1	11.5
	夜ふかしをする	7.8	26.4	59.0	6.8
	偏食が多い	15.4	29.2	45.3	10.1
	言葉づかいが悪い	4.8	47.3	40.5	7.4
	親に反抗する	4.9	43.0	47.9	4.2
	忘れ物が多い	6.4	30.1	52.5	11.0
	気が弱い	5.9	32.9	52.2	9.0
	気に入らないとあばれる	3.1	31.0	60.8	5.1
	体が弱い	5.3	30.8	54.5	9.4
	親にうそをつく	1.6	23.1	69.2	6.1

(表12) 子どもとの接し方 (小学1～2年生の頃)

(%)

		いつも していた	かなり していた	やや していた	あまり していなかった	まったく していなかった
日 本	子どもが帰る頃には必ず家 にしているようにする	47.7	25.3	11.1	9.6	6.3
	朝食は家族で一緒にとるよ うにしている	40.6	23.0	18.1	14.8	3.5
	毎日、学校での出来事を聞く	27.4	31.4	31.5	9.0	0.7
	栄養に気をつけて食事を作 る	22.7	35.9	33.9	6.8	0.7
	友だちが家に来やすいよう に心がける	22.4	26.6	31.1	17.6	2.3
	勉強を教える	10.7	20.5	40.4	22.4	6.0
	少し高くてもたくさん本を 買い与える	9.0	16.8	39.3	30.5	4.4
おやつなどは自分で作るよ うにする	4.8	17.3	36.3	33.5	8.1	
韓 国	子どもが帰る頃には必ず家 にしているようにする	44.6	27.1	14.0	10.0	4.3
	朝食は家族で一緒にとるよ うにしている	36.9	16.3	15.3	24.1	7.4
	毎日、学校での出来事を聞く	29.5	24.9	28.6	13.7	3.3
	栄養に気をつけて食事を作 る	27.0	28.7	32.8	10.4	1.1
	友だちが家に来やすいよう に心がける	32.1	24.1	25.1	15.8	2.9
	勉強を教える	22.0	21.5	29.4	18.3	8.8
	少し高くてもたくさん本を 買い与える	21.3	25.3	30.6	20.4	2.4
おやつなどは自分で作るよ うにする	4.3	7.5	21.0	33.0	34.2	

2) 子どもへの配慮

そして現在、中学生の子どもについて、どのような配慮をしているのか。図7(表13)が示すように、韓国の母親は「寝ている間は静かに」「テレビの音を小さく」「勉強がうまくいくように神や仏に祈る」など、子どもの勉強に関心を注いでいるのがわかる。

それだけ関心を払ったのであるから、子どもの成長ぶりに満足しているのか。くわしい数値は表14に目を通してほしいが、「期待を裏切った」割合をまとめると以下ようになる。

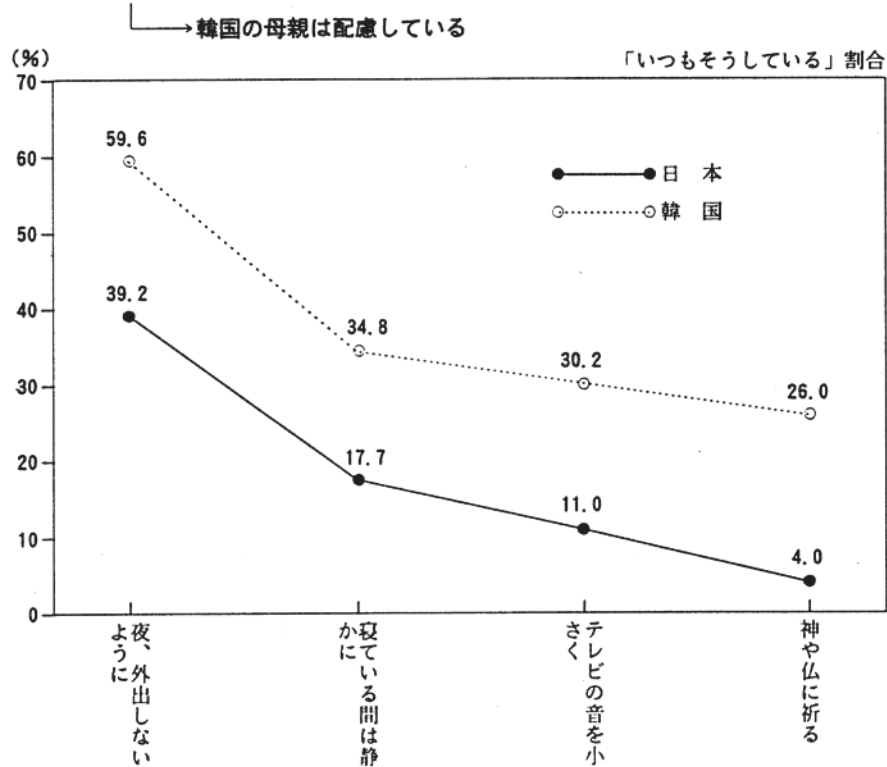
	韓国	日本
学力	52.2% > 33.7%	
やる気	33.9% > 26.9%	

体力	26.3% > 13.9%
性格	28.1% > 14.4%
友だち	12.5% > 9.8%

したがって韓国の母親は、熱心に子育てをしているだけに、子どもの現状に不満を感じるのかもしれない。

そこで改めて、「子ども」のもつ意味を確かめてみると図8(表15)の通りになる。韓国の母親の中には、子どもに「家を継ぐ」的な意味をもたせている人が26.5%を占める(「とても」の割合)のに対し、日本の母親でそう思っているのは3.3%にすぎない。したがって韓国の母親は、家意識をもちながら子育てをしているように思われる。

(図7) 子どもへの配慮



(表13) 子どもへの配慮

(%)

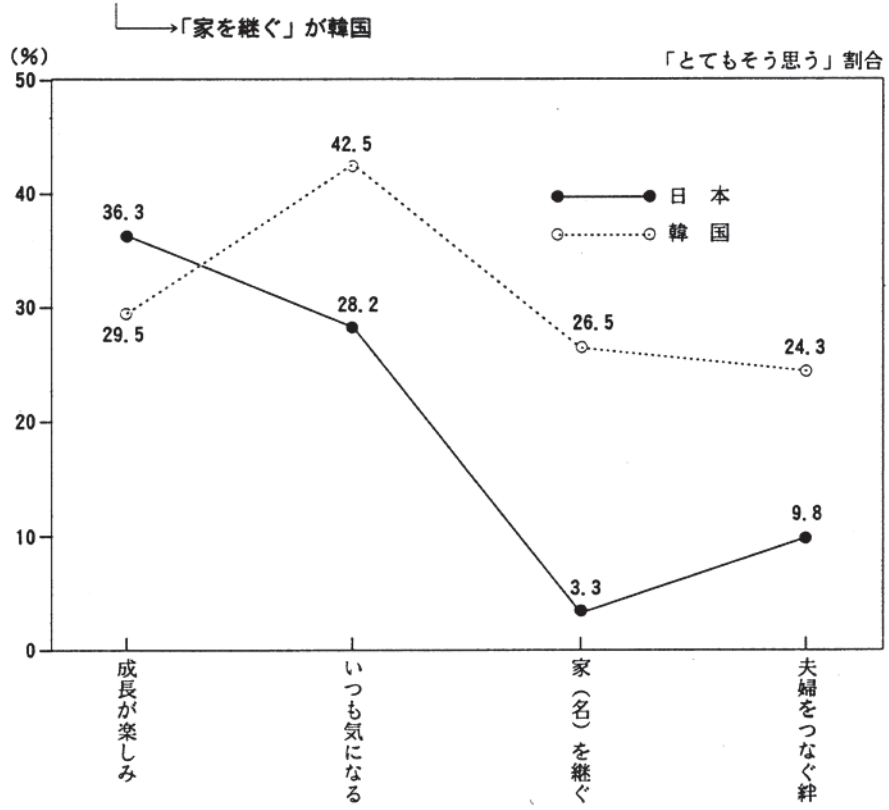
		いつも そうしている	かなり そうしている	やや そうしている	あまり そうしていない	ぜんぜん そうしていない
日 本	夜、外出しないようにしている	39.2	24.3	19.7	10.2	6.6
	栄養のバランスを考えて食事を作る	22.5	37.2	33.5	5.4	1.4
	睡眠がとれるように寝ている間は静かにする	17.7	18.7	28.6	24.1	10.9
	勉強のじゃまにならないようにテレビの音など気をつける	11.0	18.0	34.6	27.6	8.8
	子どもが勉強している間は一緒に起きている	10.0	11.3	15.8	27.2	35.7
	勉強がうまくいくように神や仏に祈る	4.0	2.9	9.4	18.1	65.6
	家の手伝いをさせない	1.4	4.4	19.6	42.3	32.3
	夜食を作ってあげる	0.9	1.7	8.5	23.0	65.9
韓 国	夜、外出しないようにしている	59.6	24.9	10.0	4.3	1.2
	栄養のバランスを考えて食事を作る	19.3	28.5	38.7	12.2	1.3
	睡眠がとれるように寝ている間は静かにする	34.8	28.1	24.8	10.1	2.2
	勉強のじゃまにならないようにテレビの音など気をつける	30.2	34.3	24.2	9.3	2.0
	子どもが勉強している間は一緒に起きている	18.2	19.6	24.0	26.9	11.3
	勉強がうまくいくように神や仏に祈る	26.0	13.1	19.5	18.7	22.7
	家の手伝いをさせない	6.1	10.5	27.0	33.4	23.0
	夜食を作ってあげる	6.9	12.3	32.5	32.7	15.6

(表14) 思い通りの成長

(%)

		予想を 大幅に 上回った	予想を やや 上回った	ほぼ 考えていた 通り	やや 期待を 裏切った	大きく 期待を 裏切った
日 本	体力の面で	13.7	22.0	50.4	12.5	1.4
	友だち関係	11.2	25.6	53.4	9.0	0.8
	性格の面で	8.7	25.4	51.5	13.3	1.1
	やる気の面で	8.2	19.5	45.4	23.0	3.9
	学力の面で	3.8	14.4	48.1	28.7	5.0
韓 国	体力の面で	11.2	18.0	44.5	22.8	3.5
	友だち関係	13.6	25.8	48.1	11.8	0.7
	性格の面で	7.1	19.7	45.1	25.1	3.0
	やる気の面で	9.4	24.9	31.8	29.7	4.2
	学力の面で	3.2	14.1	30.5	43.8	8.4

(図8) 「子ども」の意味



(表15)「子ども」の意味

(%)

		とても そう思う	かなり そう思う	まあ そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
日 本	成長が楽しみ	36.3	31.0	29.9	2.6	0.2
	いつも気になる存在	28.2	33.9	32.2	5.3	0.4
	無条件にかわいい	26.7	27.7	36.6	8.4	0.6
	家での話題の中心	13.0	30.4	41.1	14.5	1.0
	夫婦をつなぐ絆	9.8	16.9	34.7	27.9	10.7
	悩みのタネ	7.8	11.2	25.5	34.8	20.7
	家(名)を継ぐ	3.3	4.6	16.3	42.8	33.0
	老後の面倒をみてくれる人	2.0	1.6	14.4	44.2	37.8
韓 国	成長が楽しみ	29.5	36.3	23.2	9.8	1.2
	いつも気になる存在	42.5	40.5	11.9	4.3	0.8
	無条件にかわいい	16.6	35.8	35.7	11.3	0.6
	家での話題の中心	24.0	35.7	23.8	14.9	1.6
	夫婦をつなぐ絆	24.3	31.8	26.2	14.7	3.0
	悩みのタネ	1.3	2.8	8.2	28.9	58.8
	家(名)を継ぐ	26.5	27.6	23.0	18.5	4.4
	老後の面倒をみてくれる人	9.1	12.7	24.0	35.9	18.3

3. 学歴との関連

1) 学業成績

これまでふれてきたように、韓国の母親は日本の母親より子どもの学業成績に強い関心を抱いている。それでは実際に、子どもたちの成績はどうなっているのか。表16のように韓国の母親のほうが子どもの成績がよいと答えている。しかし、成績を気にしている割合は図9が示すように、日本の母親で成績を「とても+かなり気にしている」のは17.0%にとどまるが、韓国の母親でそう思っているのは62.3%に達する。

それでは、日韓の母親たちは子どもにどのような学歴を期待しているのか。表17によれば、韓国の母親の38.8%、つまり、ほぼ4割

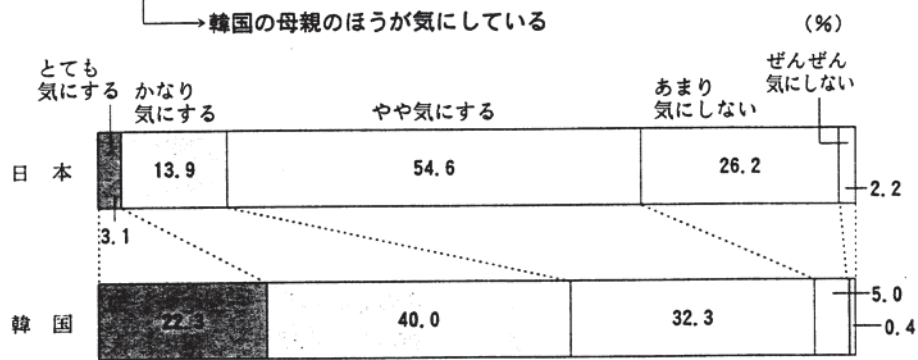
が「むずかしい大学」への進学を期待している。それに対し、日本の母親でそう思っているのは12.8%にとどまる。もちろん、日本の母親も高い学歴を望んでいるのだろうが、望んでもとても見込みがないと、望みを低くするのであろう。それに対し韓国の母親は、無理かもしれないが、何とか入学してほしいと願う。そうした差が、表中の数値となったのであろう。

さらに表18によると、「努力すれば成績が上がるか」について、韓国の母親の50.1%は「とてもそう思う」と答えている。もちろん日本の母親の30.6%もそう思っているのだが、韓国の母親のほうが「努力」の可能性を信じている。

(表16) 子どもの成績

		(%)					
		とても得意	かなり得意	やや得意	やや苦手	かなり苦手	とても苦手
日 本	英語	7.6	15.0	32.9	26.9	11.0	6.6
	国語	5.5	11.9	37.1	29.1	11.7	4.7
	数学	4.6	12.6	31.6	30.6	13.7	6.9
韓 国	英語	18.4	29.1	30.5	12.2	6.5	3.3
	国語	8.1	20.0	35.6	25.6	7.7	3.0
	数学	13.3	21.4	30.9	22.4	8.3	3.7

(図9) 成績を気にするか



(表17) 期待する学歴

→ 「むずかしい大学」へが38.8% (韓国)

(%)

	高校	専門・専修学校	短大	入るのがやさしい大学	入るのがふつうの大学	入るのがむずかしい大学
日本	11.2	10.2	12.9	5.5	47.4	12.8
韓国	0.7	4.3	—	5.3	50.9	38.8

(表18) 成績は上がるか

→ 「成績が上がる」が50.1% (韓国)

(%)

	とてもそう思う	かなりそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
日本	30.6	47.7	20.1	1.4	0.2
韓国	50.1	37.9	11.1	0.8	0.1

2) 学歴の意味

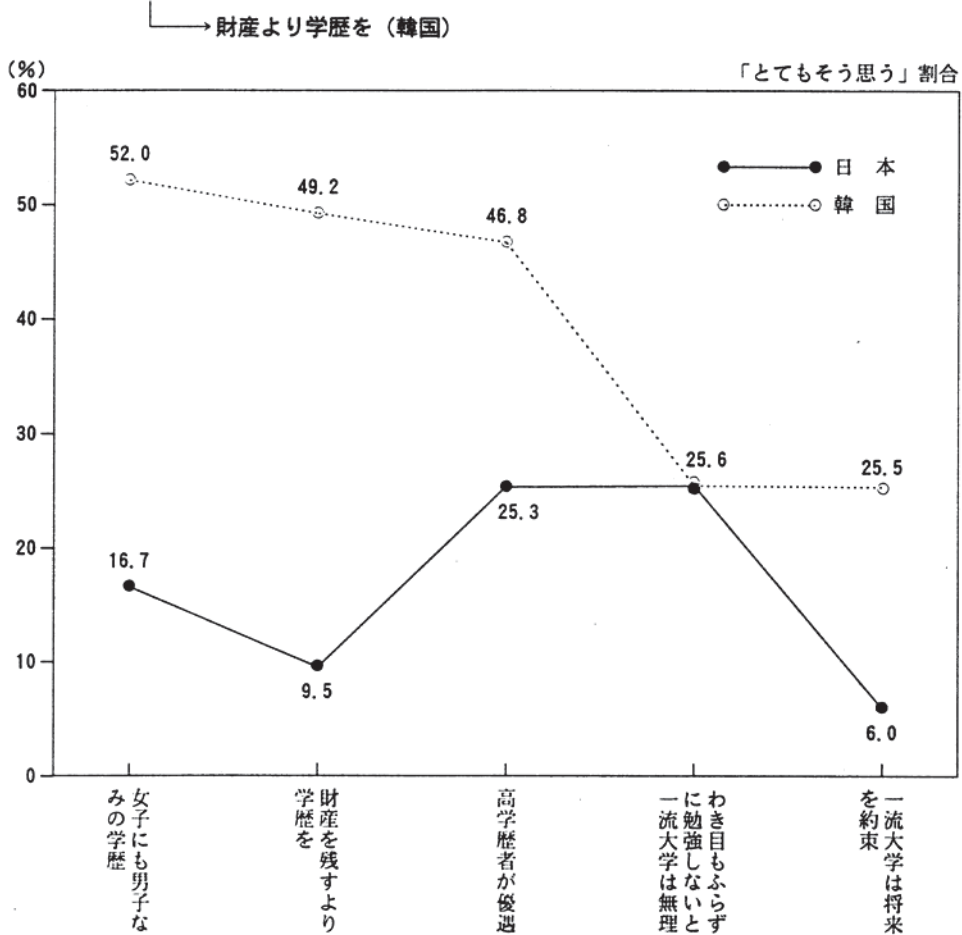
努力をすれば、むずかしい大学に入れそうだ。そう考えて母親たちは、子どもの勉強をみるのであろうが、特にその傾向が韓国の母親に強いという印象を受ける。

高い学歴を身につけると、安定した生活が送れる。学歴の意味について、そう考えてい

るのであろうが、日韓ともに「わき目もふらずに勉強しないと一流大学に入れない」と思っている。しかし、韓国の母親は「財産を残すより学歴を」「現代は高学歴者が優遇される社会」と考える割合が高い。さらに「一流大学を卒業すれば将来が約束される」と思っている人も韓国に多い(図10、表19)。

日本では大学進学率が約4割に達し、学歴

(図10) 学歴について



(表19) 学歴について

(%)

		とても そう思う	かなり そう思う	やや そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
日 本	わき目もふらずに勉強しないと一流 大学に入れない	25.6	25.0	16.8	22.5	10.1
	現代は高学歴の人が優遇される社会 だ	25.3	43.1	21.9	8.5	1.2
	女子にも男子と同じレベルの学歴を つけさせたい	16.7	20.9	29.3	26.7	6.4
	手に職があれば学歴などは必要でな い	9.7	16.7	43.6	25.5	4.5
	財産を残すより高学歴をつけてやり たい	9.5	16.2	33.6	33.4	7.3
	大学を卒業すれば人間としての幅が 広がる	6.2	13.4	34.6	32.1	13.7
	一流大学を卒業すれば将来が約束さ れる	6.0	17.6	29.9	35.8	10.7
	大学はどの大学を卒業しても変わり はないと思う	4.6	9.6	23.5	47.9	14.4
	大学を出ていないと肩身がせまい	4.3	11.0	28.2	41.7	14.8
できることなら外国の大学へ入れて あげたい	2.6	5.0	15.1	36.9	40.4	
韓 国	わき目もふらずに勉強しないと一流 大学に入れない	25.6	24.4	20.9	21.8	7.3
	現代は高学歴の人が優遇される社会 だ	46.8	31.2	15.6	6.0	0.4
	女子にも男子と同じレベルの学歴を つけさせたい	52.0	26.7	16.2	4.1	1.0
	手に職があれば学歴などは必要でな い	3.3	7.9	30.1	37.0	21.7
	財産を残すより高学歴をつけてやり たい	49.2	27.6	15.5	6.5	1.2
	大学を卒業すれば人間としての幅が 広がる	23.3	33.2	28.5	11.1	3.9
	一流大学を卒業すれば将来が約束さ れる	25.5	31.1	27.4	13.6	2.4
	大学はどの大学を卒業しても変わり はないと思う	3.0	5.5	19.4	39.5	32.6
	大学を出ていないと肩身がせまい	14.9	22.8	29.4	25.3	7.6
できることなら外国の大学へ入れて あげたい	7.3	7.3	17.7	41.6	26.1	

の意味が崩れつつある。したがって日本の場合、高学歴が将来の人生を保証するというより、差をつけられないために進学を考えるのであろう。

こうしたことを裏づけるように、韓国の母親の35.4%は、「一流大学卒業の値打ちはある」と答えているのに、日本の母親でそう思っているのは2.8%にすぎない(表20)。

一流大学は値打ちがある。そう思えるから韓国の母親は、子どもの進学に熱心になるのであろうが、教師に対する期待は表21の通りである。表の中から、日韓の評価の違いを示すと以下ようになる。

日本の母親のほうが高い=「子どもの気持ちを理解する」。

韓国の母親のほうが高い=「教科の知識が

豊富」「言葉づかいを教えてくれる」。

それでは、子どもの未来について、どのような期待をもっているのか。図11(表22)から明らかなように、家庭的な幸せはもちろんのこと、職業的な達成についても韓国の母親は、明るい見通しを抱いている。日本の母親より子どもの未来に夢をもてるだけに、韓国の母親のほうが幸せのようにも思う。

なお表23によると、日韓ともに母親は「老後は子どもの世話になるつもりはない」と答えている。さらに、表24でも「子どもとの同居は考えていない」という。そうした意味では韓国でも家意識は薄れており、母親は自分のためではなく、子どものために献身的に子育てをしているように思える。

(表20) 将来、一流大学卒の肩書きの値打ち

→ 値打ちがでる (韓国)

	(今より)ぐんと値打ちがでる	かなり値打ちがでる	やや値打ちがでる	今と変わらない	やや値打ちが下がる	かなり値打ちが下がる	まったく値打ちが下がる
日本	1.2	1.6	4.2	60.8	23.6	6.9	1.7
韓国	12.2	23.2	18.8	27.6	14.9	3.1	0.2

(%)

(表21) 教師への期待

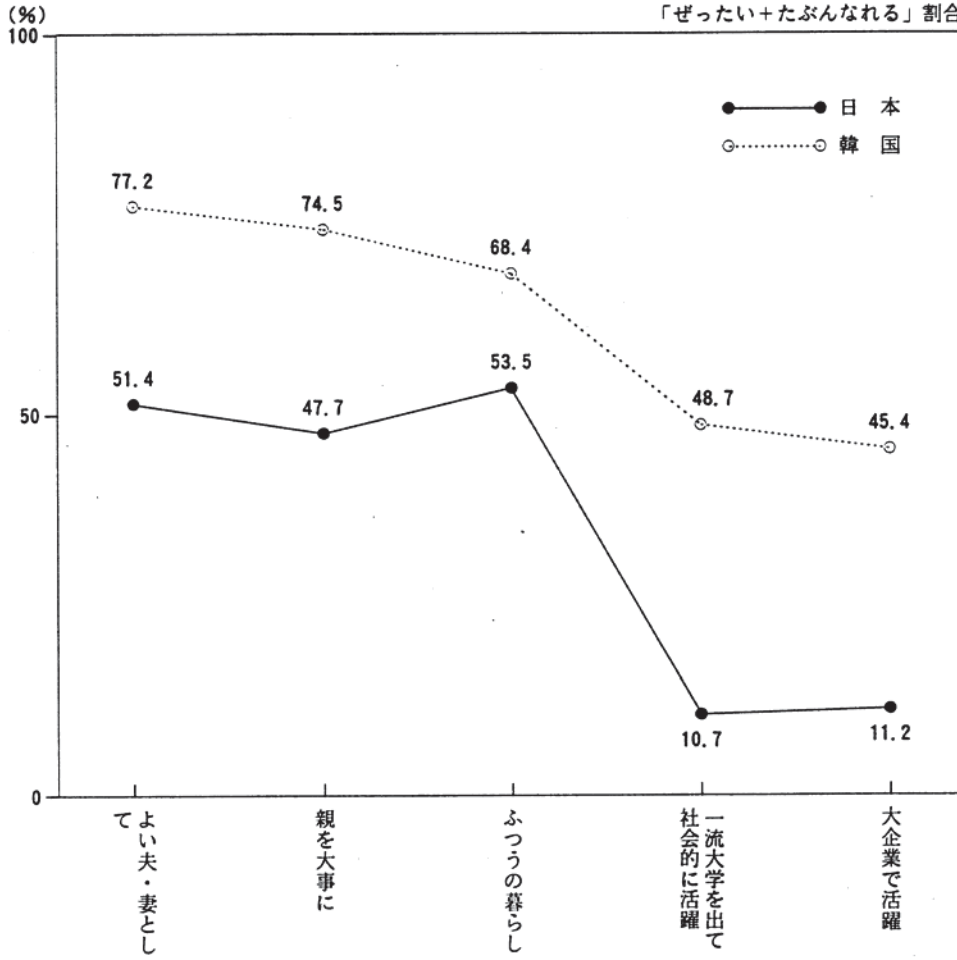
(%)

		とても望む	かなり望む	少し望む	あまり望まない	まったく望まない
日 本	子どもの気持ちを理解してくれる	71.2	20.5	7.0	0.8	0.5
	教え方がうまい	60.8	27.1	9.7	1.5	0.9
	人柄が魅力的	56.2	26.9	14.4	2.3	0.2
	教育についての見方がしっかりしている	52.7	29.9	14.7	1.6	1.1
	どの生徒にもやさしい	49.1	25.4	20.3	4.9	0.3
	教科についての知識が豊富	38.0	36.8	19.5	4.7	1.0
	進学情報に詳しい	37.7	34.7	21.7	4.2	1.7
	教科以外の知識が豊富	26.8	32.7	35.4	4.3	0.8
	家庭学習の仕方まで教えてくれる	24.7	23.4	35.3	12.5	4.1
	スポーツが得意	17.0	18.1	44.2	16.6	4.1
韓 国	部活動の指導を熱心にする	16.5	26.1	40.3	12.0	5.1
	言葉づかいや礼儀作法まで教えてくれる	12.5	16.8	45.5	20.2	5.0
	子どもの気持ちを理解してくれる	43.2	31.8	21.4	2.8	0.8
	教え方がうまい	59.2	31.2	8.8	0.8	0.0
	人柄が魅力的	67.0	23.9	8.3	0.6	0.2
	教育についての見方がしっかりしている	56.4	29.5	11.6	2.3	0.2
	どの生徒にもやさしい	63.3	22.3	11.4	2.4	0.6
	教科についての知識が豊富	57.0	29.3	12.6	0.7	0.4
	進学情報に詳しい	41.3	31.2	22.4	4.4	0.7
	教科以外の知識が豊富	45.3	31.8	19.9	2.8	0.2
家庭学習の仕方まで教えてくれる	30.6	25.2	33.5	8.3	2.4	
スポーツが得意	22.1	22.3	37.9	16.0	1.7	
部活動の指導を熱心にする	26.0	31.0	31.0	10.7	1.3	
言葉づかいや礼儀作法まで教えてくれる	52.1	29.6	15.9	2.3	0.1	

(図11) 子どもの将来

→ 韓国の母親は期待が大きい

「ぜったい+たぶんなれる」割合



(表22) 子どもの将来

(%)

		ぜったい なれる	たぶん なれる	まあ なれる	まあ なれない	とても 無理	ぜったい 無理
日 本	ふつう程度の暮らしはできる	15.7	37.8	45.0	1.0	0.4	0.1
	親をととても大事にする人になる	13.1	34.6	45.7	5.2	0.9	0.5
	よい父母としてきちんと子育てをする	12.0	37.6	45.9	3.4	0.8	0.3
	よい夫・妻として幸せな家庭を作る	11.3	40.1	44.6	2.7	1.0	0.3
	広い庭のある大きな家に住む	2.8	7.1	27.9	43.2	14.5	4.5
	社会的に尊敬される大きな仕事につける	2.3	9.2	35.6	38.9	10.5	3.5
	大企業に入り、職業人として活躍する	1.4	9.8	37.0	39.3	8.9	3.6
	一流大学を出て社会的に活躍できる	1.1	9.6	32.6	39.4	12.2	5.1
韓 国	ふつう程度の暮らしはできる	15.6	52.8	28.0	1.7	1.3	0.6
	親をととても大事にする人になる	26.8	47.7	23.7	1.7	0.1	0.0
	よい父母としてきちんと子育てをする	19.4	47.7	30.4	1.9	0.5	0.1
	よい夫・妻として幸せな家庭を作る	21.2	56.0	22.1	0.7	0.0	0.0
	広い庭のある大きな家に住む	6.0	32.0	52.8	8.2	0.5	0.5
	社会的に尊敬される大きな仕事につける	12.5	35.7	40.6	9.7	1.0	0.5
	大企業に入り、職業人として活躍する	8.8	36.6	41.3	10.7	1.5	1.1
	一流大学を出て社会的に活躍できる	10.9	37.8	40.5	9.6	0.7	0.5

(表23) 老後の経済

(%)

	日 本	韓 国
経済的に子どもの世話になるつもりはない	79.2	79.1
生活費の一部は負担してもらうつもり	4.7	12.1
同居なら食費くらいは渡したい	14.4	7.0
全面的に子どもの世話になりたい	1.7	1.8

(表24) 子どもの家族との同居

(%)

	日 本	韓 国
同居するつもり	2.5	10.3
できれば同居したい	13.3	26.5
あまり同居は考えていない	60.3	56.4
まったく同居は考えていない	23.9	6.8

第Ⅱ章 子どもの数の重み



1. 母親としての実感

これまで、単純集計の結果を中心に日韓の母親の意識を考察してきた。そこで、これからは子どもの数、学歴、職業などの属性を手がかりとして、そうした属性のもつ意味を深めていきたい。

まず子どもの数は、母親の気持ちにどのくらい影響するのだろうか。幸せ感、体調、夫のタイプ、ふだんの気分などと、子どもの数をクロスさせながら考察してみよう。

日本と韓国の母親は暮らしの中でどのくらい幸せ感をもっているのだろうか。表25で見てみよう。表が示すように、日本の4人の子どもをもつ母親の28.0%、韓国の4人の子持ちの母親の19.4%が「とても幸せ」と答えて

いる。「とても」と「かなり」を足した数値を図12でみてみよう。カーブは、日本も韓国も右上がりを描き、このデータをみる限り、子どもの数が多い母親のほうがより幸せそうに見える。

それでは、子どもが増えることにより、幸せな母親たちの体調にどのような影響を与えるのか。結果は表26の通りとなる。

日本の一人っ子の母親は、「朝起きるのがつらい」「やる気が落ちてきた」で最大値をとっている。一方、韓国の一人っ子の母親は「やる気が落ちてきた」「体力が落ちてきた」で最大値を占めている。

日本の4人の子持ちの母親は、「よく肩が

こる」「疲れやすくなった」「体力が落ちてきた」と、子どもが多い分、子育てで疲れているように思える。そして韓国の4人の子をもつ母親も、「朝起きるのがつらい」「肩がこる」「疲れやすくなった」と、実感をこめて「とてもそう思う」と答えている。

そうした中でおもしろいのは、日本と韓国の一人っ子の母親が4人の子持ちの母親より

「やる気が落ちてきた」と感じていることだ。子どもが多くなると、がんばらねばならないという気持ちから、気力がまだ維持しているであろう。

そして、体力について図13に示したのでみてみよう。日本の4人の子持ちの母親は他の母親より、より体力が落ちてきたと感じている。それに対し韓国では一人っ子の母親のほ

(表25) 幸せ感 × 子どもの数

			(%)				
			全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	幸 せ	と とも	17.9	17.8	17.3	17.4	28.0
		か な り	37.8	32.2	38.2	39.4	34.0
		や や	38.0	46.7	39.5	33.6	32.0
	幸 せ で な い	あ ま り	5.4	2.2	4.2	8.7	4.0
		ぜ ん ぜ ん	0.9	1.1	0.8	0.9	2.0
韓 国	幸 せ	と とも	14.9	9.5	15.7	14.2	19.4
		か な り	29.1	28.6	29.3	27.9	32.3
		や や	44.3	47.6	44.7	43.7	41.8
	幸 せ で な い	あ ま り	10.6	9.5	9.6	13.1	6.5
		ぜ ん ぜ ん	1.1	4.8	0.7	1.1	0.0

○は最大値

うが、わずかだが体力が落ちてきたと感じている割合が多い。日本でも韓国でも、母親たちの体調は子どもの数に左右されているようにみえる。

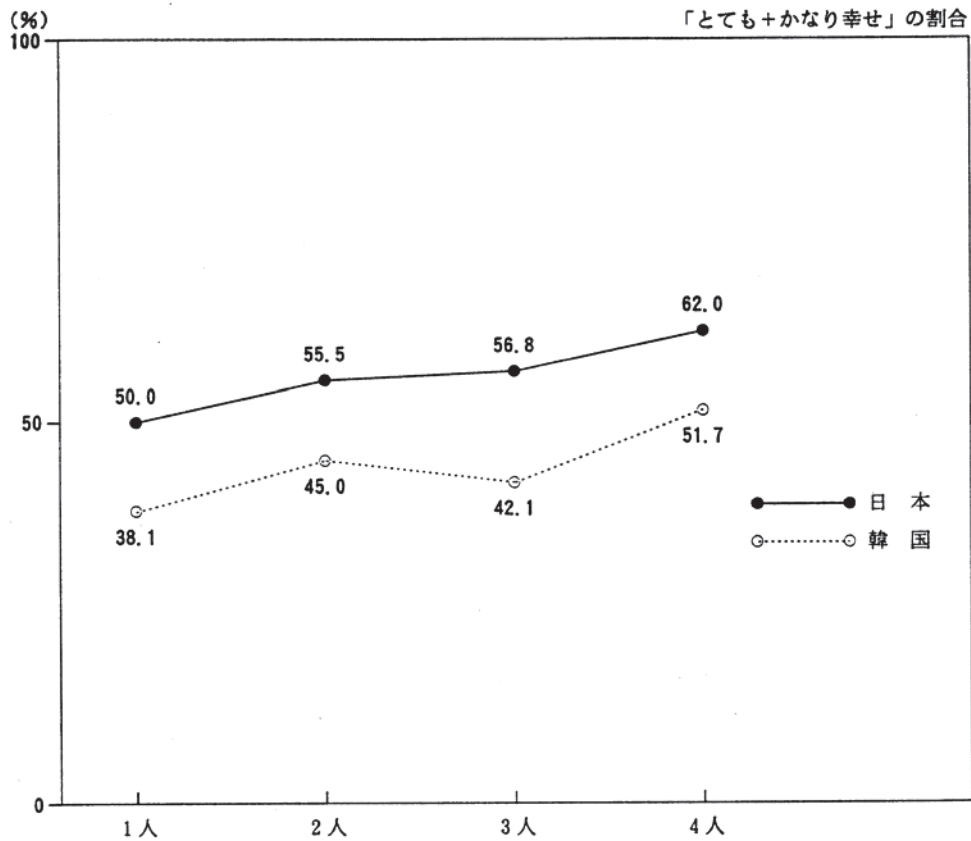
次に、夫のタイプを表27からみてみよう。4人の子をもつ日本の父親は、「子どもから親しまれ」「子どもから尊敬され」「妻を大事にしている」で「とてもそう」と思われてい

るが、「仕事第一で家庭のことをしない」とも思われている。

それに対し、4人の子をもつ韓国の父親は、「子どもをかわいがる」「子どもから親しまれている」の項目で、一人っ子の場合と比べると非常に低い割合にとどまっている。また、「仕事第一で家庭のことをしない」の項目で最大値をとっていて、家族に協力的な父親の

(図12) 幸せ感 × 子どもの数

↳ 子どもが多いと幸せ



姿はみられない。

「子どもから親しまれている」の項目の日韓比較を図14でみてみよう。子どもが4人のところで日韓のカーブが逆転している。韓国の父親は、子どもが多くなると、子どもから親しまれていない。それだけ仕事に追われ、子どもの相手をする時間をとれないのであろうか。

しかし、日本より韓国の父親は、子どもの数に関係なく子どもを大切にしているといえそう。

次に毎日の生活をどのような気持ちで過ごしているのか、表28に示した。

「家事はいくらやってもきりがない」の項目は、子どもが多くなるほど「とても感じる」割合が高くなっている。日韓ともに、こ

(表26) 体調 × 子どもの数

		(%)				
		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	朝起きるのがつらい	11.0	14.3	9.4	13.4	10.0
	よく肩がこる	26.5	28.6	28.9	20.6	34.0
	やる気が落ちてきた	11.0	13.2	9.9	12.8	10.0
	疲れやすくなった	19.0	17.6	19.9	17.2	24.0
	体力が落ちてきたと感じる	29.0	33.0	28.4	28.0	38.0
韓 国	朝起きるのがつらい	15.6	14.5	16.0	14.8	16.1
	よく肩がこる	28.2	28.6	27.8	29.1	30.0
	やる気が落ちてきた	15.4	19.7	16.5	12.2	10.3
	疲れやすくなった	28.2	25.4	28.1	28.8	36.7
	体力が落ちてきたと感じる	25.9	26.2	26.0	24.6	24.1

「とてもそう思う」割合
○は最大値

の傾向は同じように見える。したがって図15にあるように、子どもが増えるにつれて、家事に疲れを覚え、右上がりのカーブを描いている。

「子どものことがいつも気がかり」「いつも何かに追いかけているような気がする」も日韓ともに、4人の子をもつ母親が最大値をとっている。

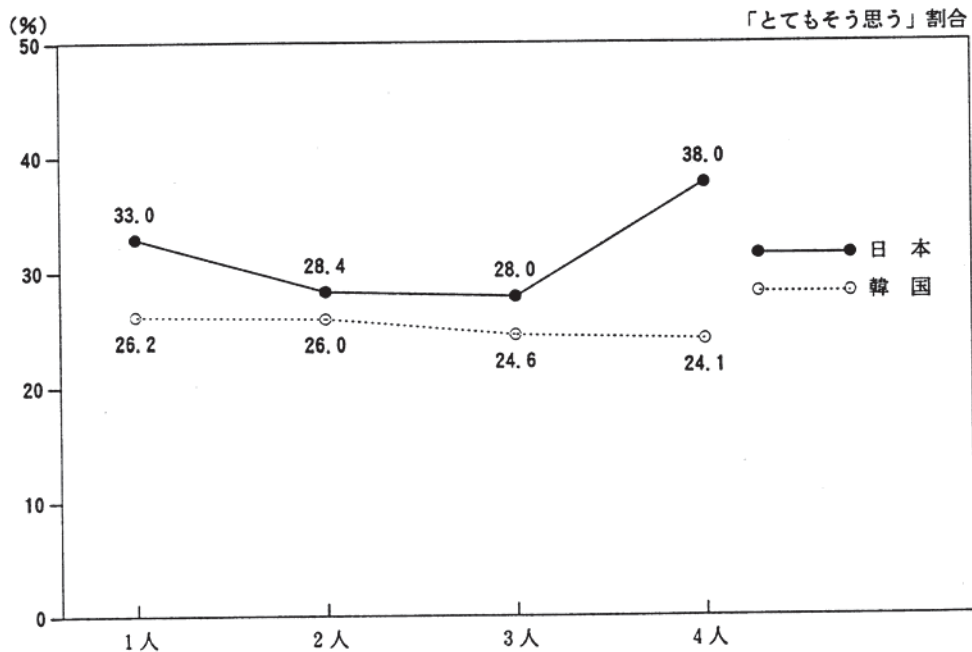
韓国の4人の子持ちの母親は「何か大切な

ことを忘れていたような気持ちになる」「いつも精神的に満たされていない感じがする」と「とても感じる」で最大値をとっているが、子どものことが気にかかっているのだろうか。

韓国は、教育事情が過熱ぎみで、わが子で頭がいっぱいになり、満足した気持ちにはなれないのであろうか。

全体的に、どの母親もいろいろなあせりをもっていると思われる。

(図13) 体力が落ちてきたと感じる × 子どもの数



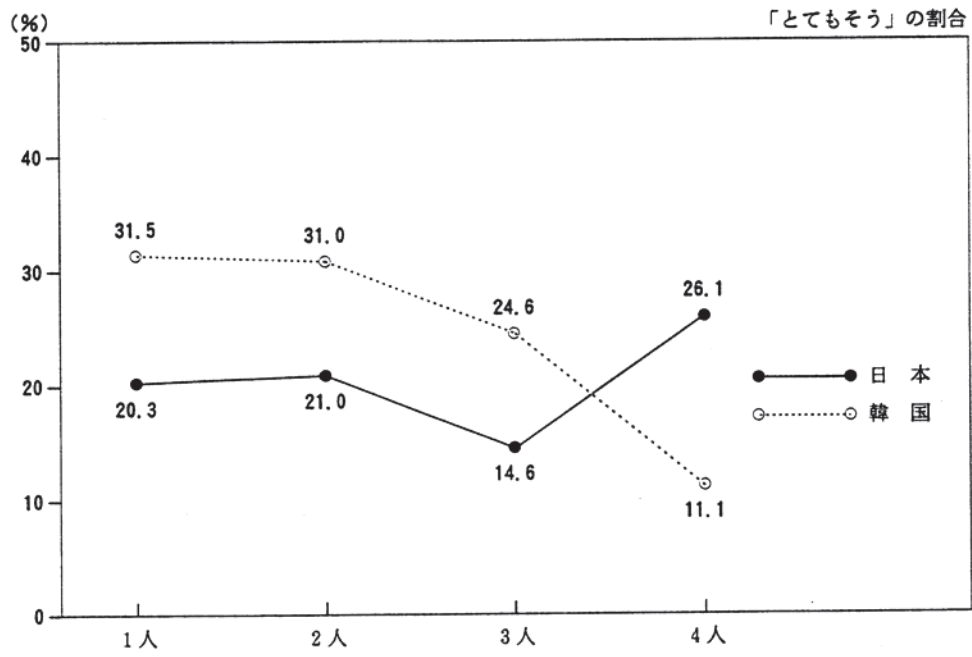
(表27) 夫のタイプ × 子どもの数

(%)

		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	子どもをかわいがる	25.7	29.0	29.2	17.9	28.9
	子どもから親しまれている	19.2	20.3	21.0	14.6	26.1
	あなたを大事にしてくれる	18.8	14.5	21.2	14.6	21.3
	子どもから尊敬されている	17.7	17.6	18.4	15.9	21.7
	仕事第一で家庭のことをしない	10.7	11.6	11.1	8.6	17.0
	料理、洗濯などを手伝ってくれる	7.4	7.2	7.4	7.3	6.5
	妻が仕事をするのは反対	5.3	4.3	4.4	6.6	8.5
韓 国	子どもをかわいがる	30.3	29.6	31.9	29.3	14.8
	子どもから親しまれている	28.5	31.5	31.0	24.6	11.1
	あなたを大事にしてくれる	30.4	26.4	31.7	28.6	25.9
	子どもから尊敬されている	30.8	28.3	33.8	25.1	22.2
	仕事第一で家庭のことをしない	5.3	3.7	5.8	4.0	11.1
	料理、洗濯などを手伝ってくれる	8.2	9.3	9.3	5.7	7.4
	妻が仕事をするのは反対	17.9	22.2	16.1	22.3	22.2

「とてもそう」の割合
○は最大値

(図14) 子どもから親しまれている × 子どもの数



(表28) ふだんの気分 × 子どもの数

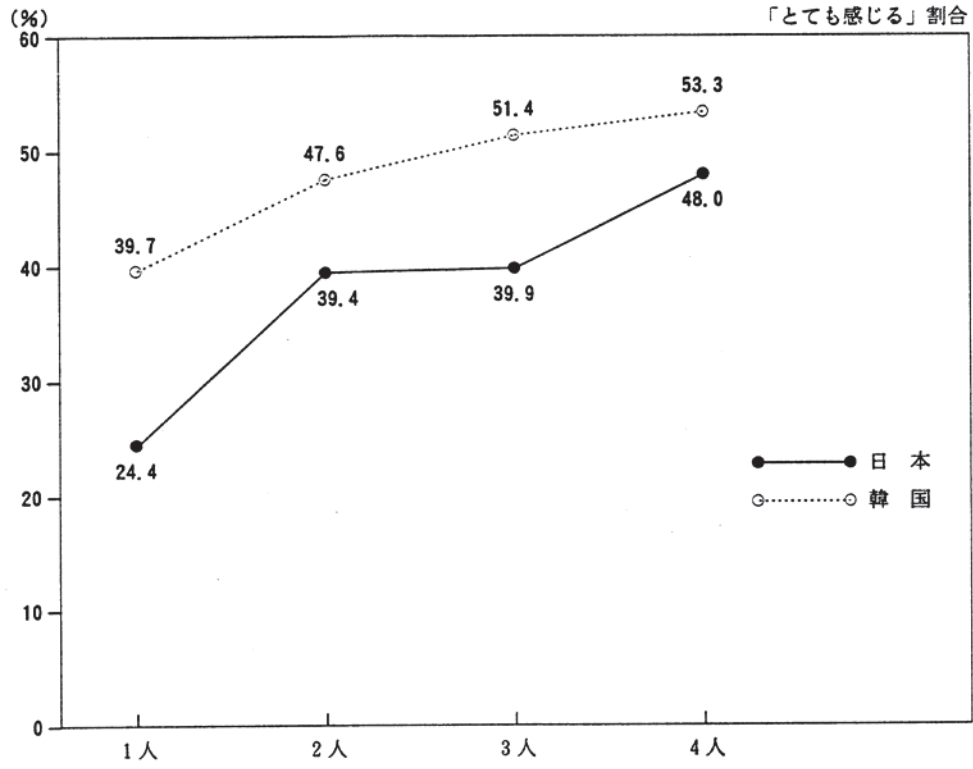
(%)

		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	家事はいくらやってもきりが ない	38.8	24.4	39.4	39.9	48.0
	子どものことがいつも気がか り	16.6	17.0	15.7	17.3	20.0
	いつも何かに追いかけてら れているような気がする	12.5	6.7	11.3	15.8	18.0
	ゆっくり鏡を見ることがなく なった	10.6	6.7	9.3	13.6	14.0
	何か大切なことを忘れてい るような気持ちになる	9.1	3.4	8.1	12.4	8.0
	いつも精神的に満たされてい ない感じがする	6.8	9.1	6.1	7.2	8.0
	何となく求人広告欄を眺めて いる自分に気がつく	4.4	2.3	3.1	6.3	12.0
韓 国	家事はいくらやってもきりが ない	48.0	39.7	47.6	51.4	53.3
	子どものことがいつも気がか り	34.0	38.1	33.1	33.5	46.7
	いつも何かに追いかけてら れているような気がする	12.8	13.1	12.5	12.5	26.7
	ゆっくり鏡を見ることがなく なった	7.7	11.5	6.6	9.8	6.9
	何か大切なことを忘れてい るような気持ちになる	15.7	19.4	13.7	18.0	27.6
	いつも精神的に満たされてい ない感じがする	12.8	13.3	11.2	15.3	24.1
	何となく求人広告欄を眺めて いる自分に気がつく	6.0	3.4	6.0	7.2	6.9

「とても感じる」割合
○は最大値

(図15) 家事はいくらやってもきりがない × 子どもの数

↳ 人数が多いと疲れる



2. 子どもとのかかわりから

まず、子どもが小学校1～2年生の頃、どのようなかかわり方をしてきたか、表29からみてみよう。

日韓とも子どもの数に関係なく、「子どもが帰る頃には必ず家にいる」の項目で「いつも+かなりしていた」母親が6割以上を占め、高い数値を示している。

そして、一見したところ韓国の一人っ子の母親は、最大値をたくさんとって、子どもに非常に手をかけていた様子が浮かんでくる。

もう少しくわしくみると、「栄養に気をつけて食事を作る」61.2%、「友だちが家に来やすいように」71.4%、「勉強を教える」51.6%、「本を買い与える」58.7%が、「いつも」「かなり」していたと答えている。健康面、友人関係、勉強に関して、とても気をつかった生活ぶりがみうけられる。

このように韓国の一人っ子の母親は、教育に対して関心が高いが、手作りのおやつはあまり作っていないように思える。

図16に、「朝食は家族で一緒にとるようにしている」を示した。

4人の子をもつ韓国の母親は、30.0%と他の数値より一段と低くなっている。前述の表29、図16から読みとれるように、子どもが4人の家族は、子どもの年齢が異なるためか、朝食も一緒にとれない。戦場のような朝を迎えている多人数の家庭の姿が浮かんでくるような数値である。

また「毎日、学校での出来事を聞く」の項

目は日本も韓国も、子どもの数が少ない母親のほうが、じっくり耳を傾けて聞いてあげたと答えている。

次に、現在の子どもへの配慮を表30からみてみよう。

日韓のどの母親も子どもの人数にかかわらず、「夜、外出しないようにしている」の項目に「いつも」「かなり」していると答えている。どの母親も、栄養、睡眠、テレビの音などに気配りし自分のできる配慮をしているようだ。

「子どもが勉強している間は一緒に起きている」の項目は、日本も韓国も一人っ子の母親に多い傾向のようである。

それに比べ、「勉強がうまくいくように神や仏に祈る」の項目では、日本と韓国の4人の子をもつ母親たちが、祈っている姿が目につく。

図17をみてわかるように、そうした祈る母親は、韓国の4人の子をもつ人に多い。宗教に対する国民性の違いもあると思うが、親の気持ちが素直にあらわれているような気がする。

「手伝いをさせない」「夜食を作ってあげる」などについて、日本の母親は韓国の母親と比べ、子どもの数に関係なくそうしている割合が少ない。

なお4人の子どもをもつ韓国の母親は、「手伝い」「夜食」は、自分のできる気配りとして、子どもに配慮している。

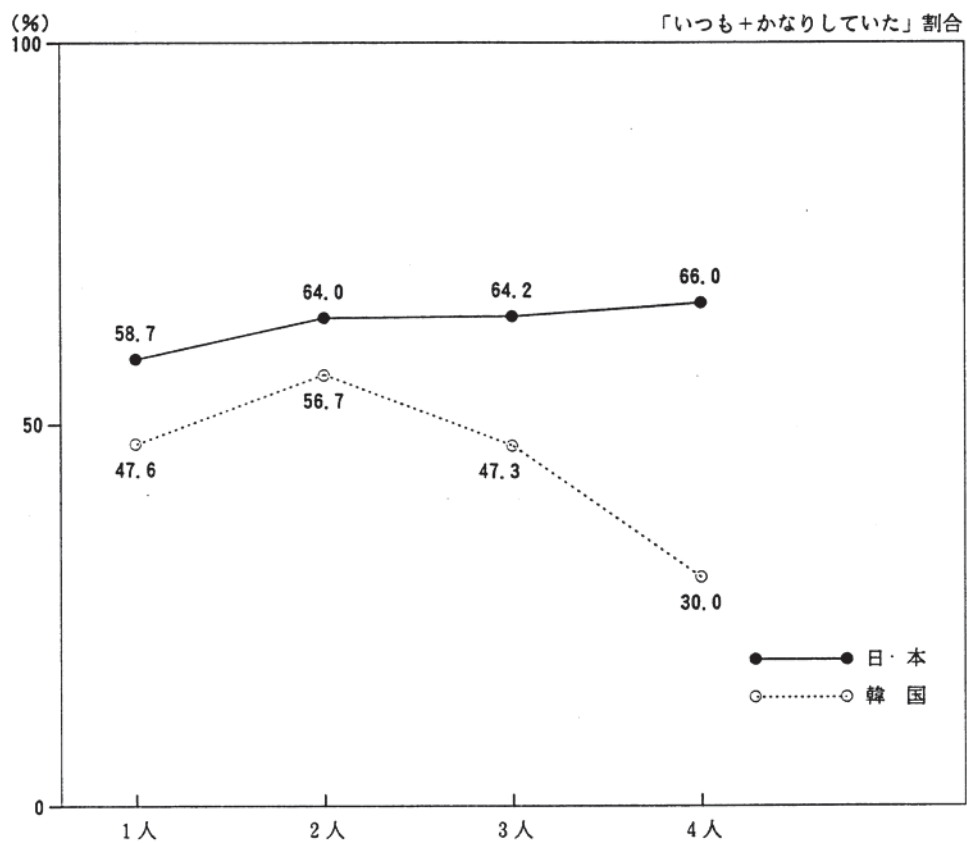
(表29) 子どもとのかかわり方(小学1~2年生の頃) × 子どもの数

(%)

		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	子どもが帰る頃には必ず家に いるようにする	73.0	67.4	75.3	70.2	78.0
	朝食は家族で一緒にとるよう にしている	63.6	58.7	64.0	64.2	66.0
	毎日、学校での出来事を聞く	58.8	66.3	62.6	52.4	46.0
	栄養に気をつけて食事を作る	58.6	53.9	60.4	57.4	53.0
	友だちが家に来やすいように 心がける	49.0	50.6	52.6	43.4	48.0
	勉強を教える	31.2	27.0	35.0	28.1	20.9
	少し高くてもたくさん本を買 い与える	25.8	37.2	27.6	24.9	12.0
おやつなどは自分で作るよう にする	22.1	16.3	24.3	20.0	20.0	
韓 国	子どもが帰る頃には必ず家に いるようにする	71.7	77.8	73.3	66.0	77.4
	朝食は家族で一緒にとるよう にしている	53.2	47.6	56.7	47.3	30.0
	毎日、学校での出来事を聞く	54.4	53.5	58.8	43.3	40.0
	栄養に気をつけて食事を作る	55.7	61.2	58.8	46.0	45.2
	友だちが家に来やすいように 心がける	56.2	71.4	58.3	47.8	42.0
	勉強を教える	43.5	51.6	45.3	37.3	36.7
	少し高くてもたくさん本を買 い与える	46.6	58.7	48.4	39.0	33.3
おやつなどは自分で作るよう にする	11.8	4.9	11.2	14.9	13.8	

「いつも+かなりしていた」割合
○は最大値

(図16) 朝食は家族で一緒にとるようにしている × 子どもの数



(表30) 子どもへの配慮 × 子どもの数

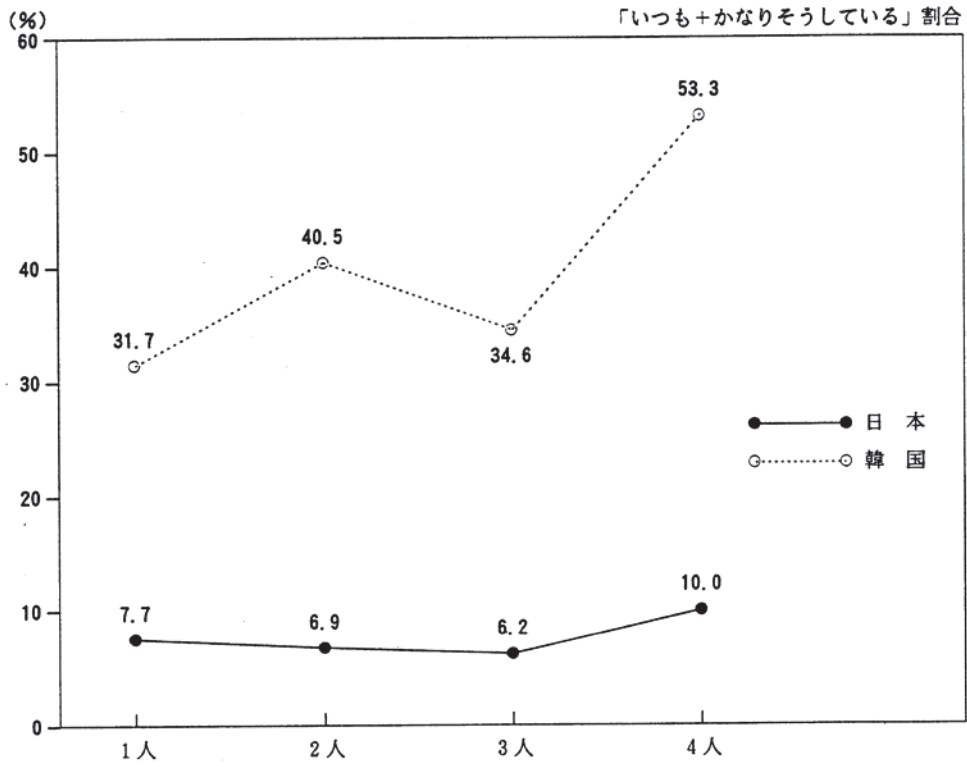
(%)

		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	夜、外出しないようにしている	63.5	65.6	66.4	56.9	66.0
	栄養のバランスを考えて食事を作る	59.7	60.5	62.2	56.6	48.0
	睡眠がとれるように寝ている間は静かにする	36.4	35.2	38.2	34.2	32.0
	勉強のじゃまにならないようにテレビの音など気をつける	29.0	26.7	33.8	22.0	24.0
	子どもが勉強している間は一緒に起きている	21.3	31.9	22.8	16.4	18.0
	勉強がうまくいくように神や仏に祈る	6.9	7.7	6.9	6.2	10.0
	家の手伝いをさせない	5.8	2.2	6.6	5.8	2.0
	夜食を作ってあげる	2.6	2.2	3.2	1.8	2.0
韓 国	夜、外出しないようにしている	84.5	87.1	85.0	82.1	83.8
	栄養のバランスを考えて食事を作る	47.8	48.3	50.6	38.9	38.4
	睡眠がとれるように寝ている間は静かにする	62.9	69.3	65.0	56.3	53.3
	勉強のじゃまにならないようにテレビの音など気をつける	64.5	59.7	68.2	57.0	67.7
	子どもが勉強している間は一緒に起きている	37.8	46.8	41.6	25.5	30.0
	勉強がうまくいくように神や仏に祈る	39.1	31.7	40.5	34.6	53.3
	家の手伝いをさせない	16.6	21.6	16.0	15.3	25.8
	夜食を作ってあげる	19.2	22.9	19.7	16.2	25.8

「いつも+かなりそうしている」割合
○は最大値

(図17) 勉強がうまくいくように神や仏に祈る × 子どもの数

↳ 韓国の母親は祈る



3. 子どもの将来

子どもの将来をみる前に、子どもをどのようにとらえているかをみてみよう。表31は、「子ども」の意味を尋ねた結果である。日韓とも一人っ子の母親が、全く同じ項目で最大値をとっている。

日韓の一人っ子の母親を比較してみると、「成長が楽しみ」44.0%と42.9%、「いつも気になる存在」30.8%と63.5%、「家での話題の中心」20.9%と36.1%、「夫婦をつなぐ絆」14.8%と32.3%、「家（名）を継ぐ」8.8%と27.9%、「老後の面倒をみてくれる人」3.3%と16.1%となっている。

「子ども」はいつも気になる存在であり、成長も楽しみで話題の中心というのは共通だが、韓国の一人っ子の母親のほうが、夫婦の絆や家（名）を継ぐ者として子どもをとらえていることが違いのようである。

そうした中で4人の子をもつ日本の母親が「無条件にかわいい」と思う反面、「悩みのタネ」でもあると思うのは、やはり子育ては大変なことという実感からのように思える。

「いつも気になる存在」の日韓比較を図18に示した。日本は、子どもの数によりそうたいした変化はないが、韓国は、極端に右下がりのカーブを描いている。韓国の一人っ子は、いつも母親から気かけられて大事に育てられているのがわかる。

最後に、子どもの将来をどのように考えているのか、表32に示した。

日本と韓国とも4人の子をもつ母親は、ほとんどの項目でも最大値をとっていて、子どもの将来を明るくとらえている。

「ふつう程度の暮らしはできる」「親をとてても大事にする」「よい父母として子育てをする」「よい夫・妻として幸せな家庭を作る」と、平凡だが人間として大切な基本的なことに関して、ぜったいなれると思っている母親が多い。

また、韓国の4人の子をもつ母親は、「社会的に尊敬される大きな仕事につける」「一流大学を出て社会的に活躍できる」の項目でも、他の母親たちより大きな夢を抱いているようである。

図19に「よい夫・妻として幸せな家庭を作る」を示した。韓国の4人の子をもつ母親のぜったいなれるという自信に満ちた答えが、とても印象的である。

日本の出生率は低下し続け、少子化傾向は深刻な度合いを強めている。しかし、今回の結果によると、日韓ともに子どもが多いほうが疲れやあせりも感じているのは確かだが、現在の自分を幸せと思い、それと同時に、子どもの将来を明るくとらえている。心がなごむ数値である。

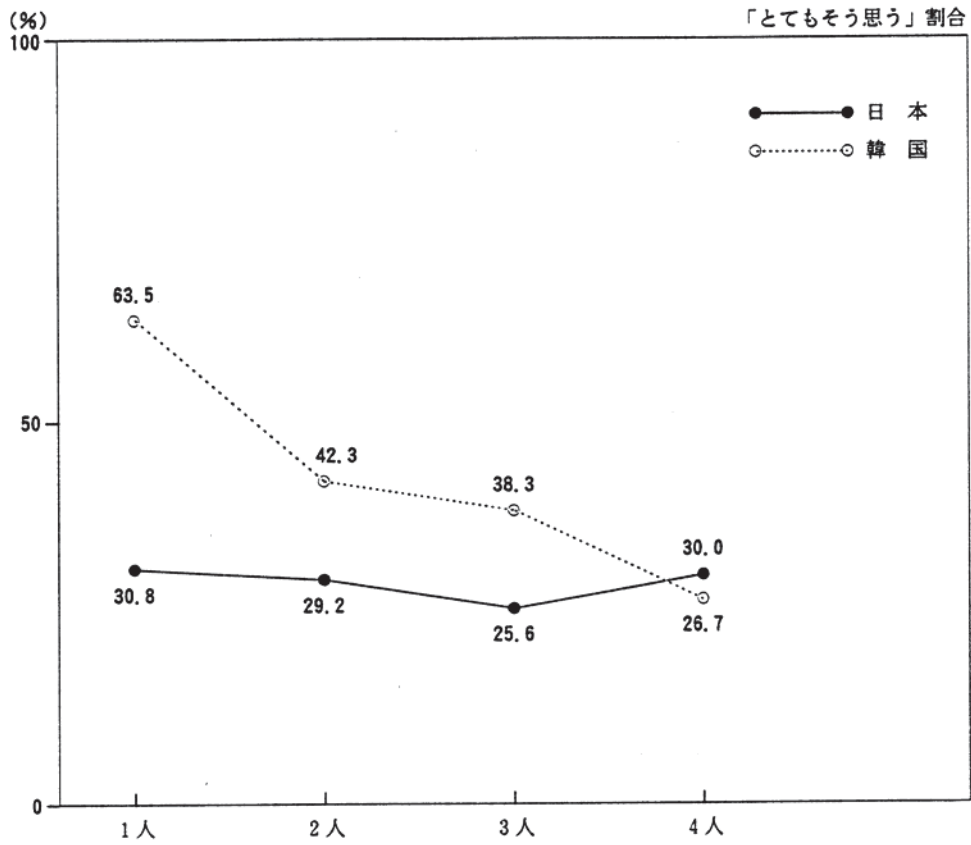
(表31) 「子ども」の意味 × 子どもの数

(%)

		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	成長が楽しみ	36.3	44.0	35.3	35.7	38.8
	いつも気になる存在	28.2	30.8	29.2	25.6	30.0
	無条件にかわいい	26.7	28.6	28.4	21.9	34.0
	家での話題の中心	13.0	20.9	13.1	9.7	18.0
	夫婦をつなぐ絆	9.8	14.8	9.4	8.9	12.5
	悩みのタネ	7.8	8.8	7.3	7.8	10.0
	家(名)を継ぐ	3.3	8.8	2.9	2.5	2.0
	老後の面倒をみてくれる人	2.0	3.3	1.9	2.2	0.0
韓 国	成長が楽しみ	29.5	42.9	27.4	31.3	27.6
	いつも気になる存在	42.5	63.5	42.3	38.3	26.7
	無条件にかわいい	16.6	17.5	16.0	18.8	16.7
	家での話題の中心	24.0	36.1	23.7	23.2	20.0
	夫婦をつなぐ絆	24.3	32.3	23.5	26.8	20.0
	悩みのタネ	1.3	0.0	0.6	4.4	0.0
	家(名)を継ぐ	26.5	27.9	26.3	26.5	24.1
	老後の面倒をみてくれる人	9.1	16.1	8.2	10.6	6.9

「とてもそう思う」割合
○は最大値

(図18) いつも気になる存在 × 子どもの数



(表32) 子どもの将来 × 子どもの数

(%)

		全 体	1 人	2 人	3 人	4 人
日 本	ふつう程度の暮らしはできる	15.7	11.0	16.1	15.5	20.0
	親をととも大事にする人になる	13.1	14.4	13.2	10.6	24.0
	よい父母としてきちんと子育てをする	12.0	6.6	12.6	10.5	20.0
	よい夫・妻として幸せな家庭を作る	11.3	8.8	12.9	7.9	14.0
	広い庭のある大きな家に住む	2.8	4.5	2.1	2.6	4.1
	社会的に尊敬される大きな仕事につける	2.3	2.3	2.1	1.6	4.0
	大企業に入り、職業人として活躍する	1.4	1.1	1.6	1.3	0.0
韓 国	一流大学を出て社会的に活躍できる	1.1	3.4	0.7	1.0	2.0
	ふつう程度の暮らしはできる	15.6	18.0	16.4	11.9	20.0
	親をととも大事にする人になる	26.8	24.2	25.6	31.4	32.3
	よい父母としてきちんと子育てをする	19.4	19.4	19.3	20.5	20.0
	よい夫・妻として幸せな家庭を作る	21.2	16.1	21.8	19.9	35.5
	広い庭のある大きな家に住む	6.0	5.0	5.3	6.0	20.0
	社会的に尊敬される大きな仕事につける	12.5	4.9	13.1	13.6	16.1
大企業に入り、職業人として活躍する	8.8	6.9	8.6	10.4	10.3	
一流大学を出て社会的に活躍できる	10.9	11.5	11.2	9.2	20.0	

「ぜったいなれる」割合
○は最大値

(図19) よい夫・妻として幸せな家庭を作る × 子どもの数

